

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5824699号  
(P5824699)

(45) 発行日 平成27年11月25日(2015.11.25)

(24) 登録日 平成27年10月23日(2015.10.23)

(51) Int.Cl. F 1  
**A 6 3 F 7/02 (2006.01)** A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

請求項の数 8 (全 31 頁)

(21) 出願番号	特願2013-186385 (P2013-186385)	(73) 特許権者	599104196
(22) 出願日	平成25年9月9日(2013.9.9)		株式会社サンセイアールアンドディ
(62) 分割の表示	特願2011-116260 (P2011-116260) の分割		愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番1 3号
原出願日	平成23年5月24日(2011.5.24)	(74) 代理人	100095669
(65) 公開番号	特開2014-61336 (P2014-61336A)		弁理士 上野 登
(43) 公開日	平成26年4月10日(2014.4.10)	(72) 発明者	平野 泰弘
審査請求日	平成26年5月2日(2014.5.2)		愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番1 3号 株式会社サンセイアールアンドディ 内
		審査官	高藤 華代

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技状態に応じた装飾を行う第一装飾体及び第二装飾体と、  
遊技領域に遊技者にとって視認可能に配置され、第一演出位置と第二演出位置との間を移動可能な演出体と、を備え、

前記第一装飾体は前記第一演出位置や前記第二演出位置とは異なる第一位置と第二位置との間を移動可能であり、

前記第二装飾体は前記第一演出位置や前記第二演出位置とは異なる第三位置と第四位置との間を移動可能であり、

前記第一演出位置に位置する前記演出体と前記第二位置に位置する前記第一装飾体との組み合わせで第一演出状態が構成され、

前記第二演出位置に位置する前記演出体と前記第四位置に位置する前記第二装飾体との組み合わせで前記第一演出状態と異なる第二演出状態が構成され、

前記第一装飾体が前記第一位置から前記第二位置に移動することで、前記第一装飾体によって前記第一演出位置に位置する前記演出体の少なくとも一部を収納可能な第一収納部を形成する一方、

前記第二装飾体が前記第三位置から前記第四位置に移動すると共に前記第一装飾体が前記第一位置から前記第二位置に移動することで、前記第二装飾体と前記第一装飾体によって前記第二演出位置に位置する前記演出体の少なくとも一部を収納可能な第二収納部を形成することを特徴とする遊技機。

10

20

**【請求項 2】**

前記第二位置に位置する前記第一装飾体と前記第四位置に位置する前記第二装飾体との組み合わせで第三演出状態が構成されることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

**【請求項 3】**

前記第一装飾体が前記第一位置に位置すると共に前記第二装飾体が前記第三位置に位置している状態においては、前記第一演出位置と前記第二演出位置の間の前記演出体の移動が可能である一方、

前記第一装飾体が前記第二位置に位置するか、または、前記第二装飾体が前記第四位置に位置することで、前記第一演出位置と前記第二演出位置の間の前記演出体の移動を規制する移動規制部が構成されることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 のいずれか一項に記載の遊技機。

10

**【請求項 4】**

前記第一装飾体を前記第一位置から前記第二位置へ移動させようとする際に、前記演出体が前記第一演出位置に位置するときには、前記演出体を前記第一演出位置から前記第二演出位置へと移動させてから前記第一装飾体を前記第一位置から前記第二位置へ移動させるか、または、前記演出体を前記第一演出位置に位置させたまま前記第一装飾体のみを前記第一位置から前記第二位置へ移動させ、

前記第一装飾体を前記第二位置から前記第一位置へ移動させようとする際に、前記演出体が前記第二演出位置に位置するときには、前記第一装飾体を前記第二位置から前記第一位置へと移動させてから前記演出体を前記第二演出位置から前記第一演出位置へ移動させるか、または、前記演出体を前記第二演出位置に位置させたまま前記第一装飾体のみを前記第二位置から前記第一位置へ移動させるように制御する制御手段を備えることを特徴とする請求項 3 に記載の遊技機。

20

**【請求項 5】**

前記第一装飾体は、同一の駆動源で動作する複数の要素部材から構成されるとともに、前記第二装飾体は、同一の駆動源で動作する前記第一装飾体を構成する要素部材と同数の要素部材から構成され、

前記第一装飾体を構成する各要素部材は、予め定められた対応する前記第二装飾体を構成する一の要素部材と一体的な状態を構成することを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか一項に記載の遊技機。

30

**【請求項 6】**

前記第一装飾体を構成する各要素部材は、前記第一装飾体が第一位置から第二位置に移動しようとする際には、予め定められた移動順通りに、ある要素部材が第一位置から第二位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第一位置から第二位置までの移動が行われるように構成される一方、

前記第一装飾体が第二位置から第一位置に移動しようとする際には、前記移動順とは逆の順で、ある要素部材が第二位置から第一位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第二位置から第一位置までの移動が行われるように構成されることを特徴とする請求項 5 に記載の遊技機。

**【請求項 7】**

40

前記第二装飾体を構成する各要素部材は、前記第二装飾体が第三位置から第四位置に移動しようとする際には、予め定められた移動順通りに、ある要素部材が第三位置から第四位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第三位置から第四位置までの移動が行われるように構成される一方、

前記第二装飾体が第四位置から第三位置に移動しようとする際には、前記移動順とは逆の順で、ある要素部材が第四位置から第三位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第四位置から第三位置までの移動が行われるように構成されることを特徴とする請求項 5 または請求項 6 に記載の遊技機。

**【請求項 8】**

前記第一装飾体を構成する各要素部材は、前記第一装飾体が第一位置から第二位置に移

50

動しようとする際には、予め定められた移動順通りに、ある要素部材が第一位置から第二位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第一位置から第二位置までの移動が行われるように構成される一方、

前記第一装飾体が第二位置から第一位置に移動しようとする際には、前記移動順とは逆の順で、ある要素部材が第二位置から第一位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第二位置から第一位置までの移動が行われるように構成され、

前記第二装飾体を構成する各要素部材は、前記第二装飾体が第三位置から第四位置に移動しようとする際には、予め定められた移動順通りに、ある要素部材が第三位置から第四位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第三位置から第四位置までの移動が行われるように構成される一方、

10

前記第二装飾体が第四位置から第三位置に移動しようとする際には、前記移動順とは逆の順で、ある要素部材が第四位置から第三位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第四位置から第三位置までの移動が行われるように構成され、

前記第一装飾体を構成するある要素部材は、その要素部材の移動順と同じ移動順で動作する前記第二装飾体を構成する要素部材と一体的な形態を構成することを特徴とする請求項 5 に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、所定の動作を行う演出用の部材を備えたパチンコ遊技機に関する。

20

【背景技術】

【0002】

例えば特許文献 1 には、遊技を演出する目的で、センター役物の周囲に可動演出装置を設けたものが記載されている。可動演出装置としては、電氣的駆動源により可動部材が基準位置から落下したり上昇したりして遊技を演出するものが例示できる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2007 - 244666 号公報

【発明の概要】

30

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、このような遊技機の中に、複数の可動演出装置を備えるものがある。このような複数の可動演出装置を備えるものには、複数の可動演出装置がそれぞれ独立した動きをするものや、複数の可動部材が合体して一つの形態を構成するものなどがある。しかし、複数の可動部材等の組み合わせによって構成される演出形態が、少なくとも一つの部材の位置を変えることで複数の演出形態を構成できるものがなく、演出効果が単調なものになっていた。

【0005】

上記実情に鑑み、本発明が解決しようとする課題は、複数の可動部材等の組み合わせによって演出を行う際に、少なくとも一つの部材の位置を変えて複数の演出形態を構成することで、複数の演出形態による優れた演出効果を発現する遊技機を提供することである。

40

【課題を解決するための手段】

【0012】

上記課題を解決するためになされた請求項 1 の発明にかかる遊技機は、遊技状態に応じた装飾を行う第一装飾体及び第二装飾体と、遊技領域に遊技者にとって視認可能に配置され、第一演出位置と第二演出位置との間を移動可能な演出体と、を備え、前記第一装飾体は前記第一演出位置や前記第二演出位置とは異なる第一位置と第二位置との間を移動可能であり、前記第二装飾体は前記第一演出位置や前記第二演出位置とは異なる第三位置と第四位置との間を移動可能であり、前記第一演出位置に位置する前記演出体と前記第二位置

50

に位置する前記第一装飾体との組み合わせで第一演出状態が構成され、前記第二演出位置に位置する前記演出体と前記第四位置に位置する前記第二装飾体との組み合わせで前記第一演出状態と異なる第二演出状態が構成され、前記第一装飾体が前記第一位置から前記第二位置に移動することで、前記第一装飾体によって前記第一演出位置に位置する前記演出体の少なくとも一部を収納可能な第一収納部を形成する一方、前記第二装飾体が前記第三位置から前記第四位置に移動すると共に前記第一装飾体が前記第一位置から前記第二位置に移動することで、前記第二装飾体と前記第一装飾体によって前記第二演出位置に位置する前記演出体の少なくとも一部を収納可能な第二収納部を形成することを特徴とする。

【0014】

請求項2の発明は、請求項1に記載の遊技機において、前記第二位置に位置する前記第一装飾体と前記第四位置に位置する前記第二装飾体との組み合わせで第三演出状態が構成されるところに特徴を有する。

10

【0016】

請求項3の発明は、請求項1または請求項2に記載の遊技機において、前記第一装飾体が前記第一位置に位置すると共に前記第二装飾体が前記第三位置に位置している状態においては、前記第一演出位置と前記第二演出位置の間の前記演出体の移動が可能である一方、前記第一装飾体が前記第二位置に位置するか、または、前記第二装飾体が前記第四位置に位置することで、前記第一演出位置と前記第二演出位置の間の前記演出体の移動を規制する移動規制部が構成されるところに特徴を有する。

【0017】

20

請求項4の発明は、請求項3に記載の遊技機において、前記第一装飾体を前記第一位置から前記第二位置へ移動させようとする際に、前記演出体が前記第一演出位置に位置するときには、前記演出体を前記第一演出位置から前記第二演出位置へと移動させてから前記第一装飾体を前記第一位置から前記第二位置へ移動させるか、または、前記演出体を前記第一演出位置に位置させたまま前記第一装飾体のみを前記第一位置から前記第二位置へ移動させ、前記第一装飾体を前記第二位置から前記第一位置へ移動させようとする際に、前記演出体が前記第二演出位置に位置するときには、前記第一装飾体を前記第二位置から前記第一位置へと移動させてから前記演出体を前記第二演出位置から前記第一演出位置へ移動させるか、または、前記演出体を前記第二演出位置に位置させたまま前記第一装飾体のみを前記第二位置から前記第一位置へ移動させるように制御する制御手段を備えるところ

30

【0018】

請求項5の発明は、請求項1から請求項4のいずれか一項に記載の遊技機において、前記第一装飾体は、同一の駆動源で動作する複数の要素部材から構成されるとともに、前記第二装飾体は、同一の駆動源で動作する前記第一装飾体を構成する要素部材と同数の要素部材から構成され、前記第一装飾体を構成する各要素部材は、予め定められた対応する前記第二装飾体を構成する一の要素部材と一体的な状態を構成するところに特徴を有する。

【0019】

請求項6に記載の発明は、請求項5に記載の発明において、前記第一装飾体を構成する各要素部材は、前記第一装飾体が第一位置から第二位置に移動しようとする際には、予め定められた移動順通りに、ある要素部材が第一位置から第二位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第一位置から第二位置までの移動が行われるように構成される一方、前記第一装飾体が第二位置から第一位置に移動しようとする際には、前記移動順とは逆の順で、ある要素部材が第二位置から第一位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第二位置から第一位置までの移動が行われるように構成されるところに特徴を有する。

40

【0020】

請求項7の発明は、請求項5または請求項6に記載の遊技機において、前記第二装飾体を構成する各要素部材は、前記第二装飾体が第三位置から第四位置に移動しようとする際には、予め定められた移動順通りに、ある要素部材が第三位置から第四位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第三位置から第四位置までの移動が行われるように構成される

50

一方、前記第二装飾体が第四位置から第三位置に移動しようとする際には、前記移動順とは逆の順で、ある要素部材が第四位置から第三位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第四位置から第三位置までの移動が行われるように構成されるところに特徴を有する。

【0021】

請求項8の発明は、請求項5に記載の遊技機において、前記第一装飾体を構成する各要素部材は、前記第一装飾体が第一位置から第二位置に移動しようとする際には、予め定められた移動順通りに、ある要素部材が第一位置から第二位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第一位置から第二位置までの移動が行われるように構成される一方、前記第一装飾体が第二位置から第一位置に移動しようとする際には、前記移動順とは逆の順で、ある要素部材が第二位置から第一位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第二位置から第一位置までの移動が行われるように構成され、前記第二装飾体を構成する各要素部材は、前記第二装飾体が第三位置から第四位置に移動しようとする際には、予め定められた移動順通りに、ある要素部材が第三位置から第四位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第三位置から第四位置までの移動が行われるように構成される一方、前記第二装飾体が第四位置から第三位置に移動しようとする際には、前記移動順とは逆の順で、ある要素部材が第四位置から第三位置まで移動し終えてから、次の要素部材の第四位置から第三位置までの移動が行われるように構成され、前記第一装飾体を構成するある要素部材は、その要素部材の移動順と同じ移動順で動作する前記第二装飾体を構成する要素部材と一体的な形態を構成するところに特徴を有する。

【発明の効果】

【0028】

請求項1の発明によれば、第一装飾体は、第一演出位置に位置する演出体（独立して動作する可動部材）と第一演出状態を構成し、第二装飾体は、第二演出位置に位置する演出体と第二演出状態を構成する。つまり、独立して動作する演出体が第一演出位置にあるか第二演出位置にあるかによって、異なる可動部材との組み合わせにより別の演出状態を構成することが可能であるから、幅広い演出効果を発現する遊技機となる。

【0029】

また、第一装飾体が第一位置と第二位置の間を移動可能、第二装飾体が第三位置と第四位置の間を移動可能とした上で、第一演出位置に位置する演出体と第二位置に位置する第一装飾体との組み合わせで第一演出状態が構成され、第二演出位置に位置する演出体と第四位置に位置する第二装飾体との組み合わせで第二演出状態が構成されるようにすれば、第一装飾体、第二装飾体、および演出体によってより幅広い演出効果を発現することが可能となる。

また、第一装飾体によって第一演出位置に位置する演出体を収容することができる第一収納部、第一装飾体および第二装飾体によって第二演出位置に位置する演出体を収容することができる第二収納部が構成される構造、すなわち、遊技領域において第一装飾体や第二装飾体によって区画される領域（第一収納部および第二収納部）に演出体が入り込んだ状態とすることができる構造とすれば、限られた遊技領域を有効に活用して効果的な演出を行うことが可能となる。具体的には、第一装飾体および第二装飾体の少なくともいずれか一方と、演出体との合体動作による優れた演出効果が発現される。

【0030】

請求項2に記載の発明のように、第二位置に位置する第一装飾体と第四位置に位置する第二装飾体によって第三演出状態を構成するようにした場合には、第一装飾体と第二装飾体によってさらに幅広い演出効果を発現することが可能となる。

【0032】

請求項3の発明によれば、第一装飾体が第二位置に位置するか、または、第二装飾体が第四位置に位置している状態においては、第一演出位置と第二演出位置の間の演出体の移動を規制する移動規制部が構成されるため（各装飾体と演出体の動作が規制されるため）、第一装飾体および第二装飾体と演出体が干渉することを防止しつつ、種々の演出を行うことが可能となる。

## 【 0 0 3 3 】

請求項4の発明によれば、上記制御手段を備えることにより（上記のように第一装飾体と演出体の動作を制御することにより）、第一装飾体と演出体が干渉することを防止しつつ、種々の演出を行うことが可能となる。

## 【 0 0 3 4 】

請求項5の発明によれば、第一装飾体および第二装飾体が、ともに、複数の要素部材から構成され、第一装飾体の要素部材と第二装飾体の要素部材が組み合わされて一体的な状態を構成する構造であるため、第一装飾体と第二装飾体によってなされる合体動作に様々な変化をもたらすことができる。換言すれば、複数種類の合体動作による演出を提供することが可能となる。

10

## 【 0 0 3 5 】

請求項6および請求項7の発明によれば、第一装飾体または第二装飾体を構成するある要素部材が第一位置または第三位置から第二位置または第四位置に移動し終えてから次の要素部材の第一位置または第三位置から第二位置または第四位置までの移動が行われるように構成されるため、一の要素部材のみで状態を構成したり、複数の要素部材で状態を構成したりすることが可能となり、幅広い演出を提供することが可能となる。

## 【 0 0 3 6 】

請求項8の発明によれば、第一装飾体および第二装飾体を構成する複数の要素部材（第一要素部材～第三要素部材）が、予め定められた移動順通りに移動し、同じ移動順の要素部材同士が一体的な状態を構成するため、ある一つの要素部材同士だけで一体的な状態を構成したり、複数の要素部材同士で一体的な状態を構成したりするなど、幅広い演出を提供することが可能となる。

20

## 【図面の簡単な説明】

## 【 0 0 3 7 】

【図1】本発明の一実施形態にかかる遊技機の正面図であり、第一装飾体が第二位置、第二装飾体が第四位置、演出体が第二演出位置に位置している状態を示したものである。

【図2】図1に示した遊技機が備える遊技盤の正面図であり、第一装飾体が第二位置、第二装飾体が第四位置、演出体が第二演出位置に位置している状態を示したものである。

【図3】第一装飾体（第一位置）、第二装飾体（第三位置）、および演出体（第一演出位置）が取り付けられた装置枠体の正面図である。

30

【図4】装飾部材（第一装飾体および第二装飾体（これらの駆動源等を含む））の外観斜視図である。

【図5】図4におけるA部拡大図である。

【図6】第一装飾体が第二位置、第二装飾体が第四位置に位置している状態における第一装飾体および第二装飾体（これらの駆動源等を含む）を前方から見た分解斜視図である。

【図7】第一装飾体が第二位置、第二装飾体が第四位置に位置している状態における第一装飾体および第二装飾体（これらの駆動源等を含む）を後方から見た分解斜視図である。

【図8】第一装飾体が第一位置、第二装飾体が第三位置に位置している状態における第一装飾体および第二装飾体（これらの駆動源等を含む）を前方から見た分解斜視図である。

【図9】第一装飾体が第一位置、第二装飾体が第三位置に位置している状態における第一装飾体および第二装飾体（これらの駆動源等を含む）を後方から見た分解斜視図である。

40

【図10】第一装飾体が有する板状体（第一～第三板状体）および第二装飾体が有する板状体（第一～第三板状体）の拡大図である。

【図11】第一装飾体の全ての要素部材が第二位置に位置している状態を示した図である。

【図12】第一装飾体の第一要素部材および第二要素部材が第二位置に位置し、第一装飾体の第三要素部材が第一位置に位置している状態を示した図である。

【図13】第一装飾体の第一要素部材が第二位置に位置し、第一装飾体の第二要素部材および第三要素部材が第一位置に位置している状態を示した図である。

【図14】第一装飾体の全ての要素部材が第一位置に位置し、第二装飾体の全ての要素部

50

材が第三位置に位置している状態を示した図である。

【図 1 5】第二装飾体の第一要素部材が第四位置に位置し、第二装飾体の第二要素部材および第三要素部材が第三位置に位置している状態を示した図である。

【図 1 6】第二装飾体の第一要素部材および第二要素部材が第四位置に位置し、第二装飾体の第三要素部材が第三位置に位置している状態を示した図である。

【図 1 7】第二装飾体の全ての要素部材が第四位置に位置している状態を示した図である。

【図 1 8】図 1 6 ( a ) は第一演出位置に位置している演出体 ( その駆動源等を含む ) の外観斜視図であり、図 1 6 ( b ) は第二演出位置に位置している演出体 ( その駆動源等を含む ) の外観斜視図である。

【図 1 9】演出体が第一演出位置に位置している状態を示した図である。

【図 2 0】演出体が第二演出位置に位置している状態を示した図である。

【図 2 1】第一装飾体の第一要素部材と第二装飾体の第一要素部材によって円環形状の構造物 ( 小円 ) が構成された状態を示した図である。

【図 2 2】第一装飾体の第一要素部材および第二要素部材と第二装飾体の第一要素部材および第二要素部材によって円環形状の構造物 ( 小円および中円 ) が構成された状態を示した図である。

【図 2 3】第一装飾体の全ての要素部材と第二装飾体の全ての要素部材によって円環形状の構造物 ( 小円、中円、および大円 ) が構成された状態を示した図である。

【図 2 4】第一演出形態の一つを示した図である。

【図 2 5】第二演出形態の一つを示した図である。

【図 2 6】第一演出状態を示した図である。

【図 2 7】第二演出位置に位置する演出体と第四位置に位置する第一装飾体によって構成された演出状態を示した図である。

【図 2 8】第二演出状態を示した図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 3 8 】

以下、本発明にかかる実施形態について図面を参照して詳細に説明する。なお、以下の説明において単に前側 ( 前方 ) とは遊技機 1 正面側のことであり、単に後側 ( 後方 ) とは遊技機 1 の背面側のことである。また、単に左側、右側、上側、下側とは、遊技機 1 を正面から見た場合の左側、右側、上側、下側のことであり、図 1 における左側、右側、上側、下側を指す。また、単に幅方向とは、遊技機 1 の幅方向のことであり、図 1 における左右方向を指し、単に平面方向とは遊技盤 9 0 の平面方向を指す。

【 0 0 3 9 】

( 遊技機の全体構成 )

まず、遊技機 1 の全体構成について簡単に説明する。図 1 に示されるように、遊技機 1 は、所定の奥行きを有する額縁形状の機枠 8 0 を備える。この機枠 8 0 には前面枠 8 1 が取り付けられている。前面枠 8 1 は、その左側縁が機枠 8 0 に回動自在に支持され、前側に開閉可能である。また、前面枠 8 1 には、ガラス枠 8 2 が取り付けられている。ガラス枠 8 2 は、その左側縁が前面枠 8 1 に回動自在に支持され、前側に開閉可能である。

【 0 0 4 0 】

ガラス枠 8 2 の中央の開口部にはガラス板またはプラスチック板等の透明な板が設けられており、遊技者はこの透明な板を通して前側から遊技盤 9 0 を視認できる。また、ガラス枠 8 2 の下部には、払い出された遊技球を発射装置に送るまで貯めておく上皿ユニット 8 3 が設けられている。上皿ユニット 8 3 には、貯留されている遊技球を下皿ユニット 8 5 に流下させる上皿スイッチや、貸し出し可能な貸し球を払い出す球貸しスイッチ等が設けられている。また、ガラス枠 8 2 の上部左右両側には、スピーカ 8 4 が設けられている。

【 0 0 4 1 】

前面枠 8 1 の下部には、払い出された遊技球が上皿ユニット 8 3 に入りきらない場合等

10

20

30

40

50

に遊技球を貯めることができる下皿ユニット 8 5 や、遊技球を発射操作するためのタッチスイッチを備える発射ハンドル 8 6 等が設けられている。下皿ユニット 8 5 の左側には、表示装置 9 2 に表示される演出に応じて遊技者が操作を行う遊技スイッチ 8 7 が設けられている。

#### 【 0 0 4 2 】

図 2 に示す遊技盤 9 0 は、ほぼ正方形の合板により成形されており、前面枠 8 1 に着脱可能に取り付けられている。この遊技盤 9 0 には、発射装置から発射された遊技球をガイドする金属製の薄板からなる帯状のガイドレール 1 1 が略円弧形状となるように設けられており、このガイドレール 1 1 によって遊技領域の外郭の一部が形成されている。

#### 【 0 0 4 3 】

遊技盤 9 0 の遊技領域には、表示装置 9 2、始動入賞口 9 3 1、大入賞口 9 3 2、アウト口 9 3 3 などが設けられている。表示装置 9 2 は、例えば液晶表示装置が用いられ、表示装置 9 2 の表示画面（表示部）において特別図柄や普通図柄等が表示される。かかる表示装置 9 2 の表示画面は、遊技盤 9 0 に形成された開口を通じて視認可能である。なお、図 1 および図 2 に示すように、可動演出装置 2 が所定の演出形態を構成した際には、表示装置 9 2 は可動演出装置 2 の役物に覆われた状態となる。

#### 【 0 0 4 4 】

また、遊技盤 9 0 の遊技領域には、流下する遊技球が衝突することにより遊技球の流下態様に変化を与える障害物としての図示しない遊技釘が複数設けられている。遊技領域を流下する遊技球は、遊技釘に衝突したときの条件に応じて様々な態様に変化する。

#### 【 0 0 4 5 】

さらに、表示装置 9 2 の周辺には、遊技の装飾効果（演出効果）を高めるための可動演出装置 2 が設けられている。可動演出装置 2 は、表示装置 9 2 と連動して演出動作を行う。かかる可動演出装置 2 の構成の詳細については後述する。

#### 【 0 0 4 6 】

なお、図示しないが、遊技機 1 の背面側には、枠用外部端子基板、表示制御基板、主制御基板、音声制御基板、ランプ制御基板、払出制御基板、発射制御基板、電源基板等の各種基板、カードインターフェース接続部、球寄せ、球タンク、タンクレール、払出装置、発射装置等の各種の遊技機構構成部材が設けられている。なお、以下の説明では、主制御基板等の遊技機 1 の制御を行う構成を一括りに制御手段と称する。

#### 【 0 0 4 7 】

このような遊技機 1 では、発射ハンドル 8 6 の操作により、発射装置から遊技領域に遊技球を発射し、遊技領域を流下する遊技球が、始動入賞口 9 3 1 や大入賞口 9 3 2 等の入賞口に入賞すると、所定の数の賞球が払出装置により払い出される。その他、大当たりの抽選方法等は、公知の遊技機の制御方法が適用できるため、説明は省略する。

#### 【 0 0 4 8 】

##### （可動演出装置の構成）

以下、遊技機 1 が備える可動演出装置 2 の構成について図 3 ～ 図 2 6 を参照して説明する。可動演出装置 2 は、遊技機 1 の制御手段によって制御される遊技演出用の役物（可動部材）である、第一装飾体 1 0 および第二装飾体 2 0 を有する装飾部材 5 と、演出体 3 0 と、を備える。これらは、遊技盤 9 0 の後側に、表示装置 9 2（表示画面）の周囲を囲むように設けられる装置枠体 2 a（図 3 参照）に取り付けられ、同一平面上に位置する（これら全てが交差する上下左右方向に広がるある一つの平面が存在する）。以下、各構成について詳細に説明する。

#### 【 0 0 4 9 】

##### 1）第一装飾体の構成・基本動作

装飾部材 5 が有する第一装飾体 1 0 の構成について説明する。第一装飾体 1 0 は、装置枠体 2 a の下部（表示装置 9 2 の表示画面の下側）に取り付けられた役物であり、後述する第二装飾体 2 0 とともに遊技状態に応じた装飾を行う部材である。第一装飾体 1 0 は、第一装飾体用駆動源 1 4 によって第一位置と第二位置の間を移動可能であり、第一要素部

10

20

30

40

50



材 1 1 と、第二要素部材 1 2 と、第三要素部材 1 3 と、を備える。本実施形態では、各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 は、遊技機 1 を上下方向に二分する中央線に関し左右対称に位置する二つの部材から構成される（以下、左側に位置する要素部材を左（第一～第三）要素部材 1 1 L , 1 2 L , 1 3 L、右側に位置する要素部材を右（第一～第三）要素部材 1 1 R , 1 2 R , 1 3 R と区別することもある）。

#### 【 0 0 5 0 】

各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 は、円弧状に形成された環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 と、環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 の下方に形成される接続部 1 1 2 , 1 2 2 , 1 3 2 を有する。環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 は遊技を演出する部分である。この環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 の円弧の径が小さい方から順に（曲率が大きい方から順に）第一要素部材 1 1、第二要素部材 1 2、第三要素部材 1 3 となる。第一装飾体 1 0 における第一要素部材 1 1、第二要素部材 1 2、第三要素部材 1 3 の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 の曲率は、それぞれ、後述する第二装飾体 2 0 における第一要素部材 1 1、第二要素部材 2 2、第三要素部材 2 3 の曲率と略一致する。これら各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 がならんで遊技者に視認可能となる上方に位置（表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる位置）した状態が、「第一装飾体 1 0 が第二位置に位置した状態」である（図 1 1 に示した状態）。この第二位置において、各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 の円弧は同心円状に位置する。また、左要素部材 1 1 L , 1 2 L , 1 3 L と右要素部材 1 1 R , 1 2 R , 1 3 R の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 は、同じ径の円弧を描くように一体的な形状を構成する。

#### 【 0 0 5 1 】

一方、「第一装飾体 1 0 が第一位置に位置した状態」とは、詳細を後述するように、各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 同士が離れる方向に移動し、表示領域に全ての要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 が重なっていない状態である（図 1 4 に示した状態）。第一位置において、第一装飾体 1 0 は、装置枠体 2 a の下部の前側に位置する。

#### 【 0 0 5 2 】

一方、接続部 1 1 2 , 1 2 2 , 1 3 2 は、環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 よりも曲率が大い円弧状の部分である。第一装飾体 1 0 が第二位置に位置する場合において、所定の大きさの円形空間（第一収納部 S 1 ）を構成する。この円形空間は、詳細を後述する演出体 3 0 が収容可能な大きさである。また、接続部 1 1 2 , 1 2 2 , 1 3 2 の先端（下端）は、略円形に形成されている。各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 は、接続部 1 1 2 , 1 2 2 , 1 3 2 の略円形部分の中心で装置枠体 2 a に回転自在に支持されている。平面方向における各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 の回転中心は同じであり、各接続部 1 1 2 , 1 2 2 , 1 3 2 の円形部分同士は、同一の支持軸 1 6 に回転自在に支持されている。この各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 における接続部 1 1 2 , 1 2 2 , 1 3 2 の円形部分の外周における中央側の一部には、互いに噛合する歯車 1 1 2 a , 1 2 2 a , 1 3 2 a が形成されている。この歯車 1 1 2 a , 1 2 2 a , 1 3 2 a の噛合位置を変化させることによって、要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 が上記略円形部分の中心を回転中心として回転する。すなわち、歯車 1 1 2 a , 1 2 2 a , 1 3 2 a の噛合位置を変化させることによって、第一装飾体 1 0 が第一位置から第二位置まで移動する。また、第一左要素部材 1 1 L、第二左要素部材 1 2 L、第三左要素部材 1 3 L には、下方に向かって突出する被押圧突起 1 1 2 b , 1 2 2 b , 1 3 2 b が形成されている。この各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 に形成された被押圧突起 1 1 2 b , 1 2 2 b , 1 3 2 b は前後方向に重なるように（平面方向における位置が略同じとなるように）形成されている。この被押圧突起 1 1 2 b , 1 2 2 b , 1 3 2 b は、後述する連繋部材 1 5 に形成された押圧突起 1 5 1 b , 1 5 2 b , 1 5 3 b に係合する部分である。

#### 【 0 0 5 3 】

このような構成の第一装飾体 1 0（各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3）は、装置枠体 2 a に固定された第一装飾体用駆動源 1 4 と次のように連繋されている。本実施形態では、第一

装飾体用駆動源 1 4 はモータである。この第一装飾体用駆動源 1 4 の出力軸（回転軸）には、出力歯車 1 4 1 が固定されている。一方、装置枠体 2 a には、幅方向にスライド自在に固定された連繋部材 1 5 が設けられている。連繋部材 1 5 は、三枚の板状体が前後方向に重なるように組み合わされてなる部材であり、三つの板状体は、それぞれ、第一要素部材 1 1、第二要素部材 1 2、および第三要素部材 1 3 に係合する（以下、第一要素部材 1 1 に係合する板状体を第一板状体 1 5 1、第二要素部材 1 2 に係合する板状体を第二板状体 1 5 2、第三要素部材 1 3 に係合する板状体を第三板状体 1 5 3 と区別して称することもある）。このうち、少なくともいずれか一つの板状体（本実施形態では第三板状体 1 5 3）には、ラック 1 5 a（歯竿）が形成されており、出力歯車 1 4 1 と噛合している。つまり、出力歯車 1 4 1 が回転することにより、三つの板状体が組み合わされてなる連繋部材 1 5 は幅方向にスライドする。

10

**【0054】**

一方、各連繋部材 1 5 の板状体 1 5 1、1 5 2、1 5 3 には、幅方向に長い長孔である貫通孔 1 5 1 a、1 5 2 a、1 5 3 a が形成されている。この貫通孔 1 5 1 a、1 5 2 a、1 5 3 a には、各接続部 1 1 2、1 2 2、1 3 2 の円形部分同士を接続し、各要素部材 1 1、1 2、1 3 を回転自在に支持する支持軸 1 6 が挿通されている。そして、各左要素部材 1 1 L、1 2 L、1 3 L の接続部 1 1 2、1 2 2、1 3 2 に形成された被押圧突起 1 1 2 b、1 2 2 b、1 3 2 b は、対応する板状体に形成された貫通孔 1 5 1 a、1 5 2 a、1 5 3 a の内側に位置する（被押圧突起 1 1 2 b、1 2 2 b、1 3 2 b と貫通孔 1 5 1 a、1 5 2 a、1 5 3 a が同一平面上に位置する）。

20

**【0055】**

また、貫通孔 1 5 1 a、1 5 2 a、1 5 3 a の下壁の右側には、押圧突起 1 5 1 b、1 5 2 b、1 5 3 b が形成されている。この押圧突起 1 5 1 b、1 5 2 b、1 5 3 b の存在により、貫通孔 1 5 1 a、1 5 2 a、1 5 3 a には上下方向における大きさが相対的に大きい部分（相対的に幅広の部分）と相対的に小さい部分（相対的に幅狭の部分）が形成される。押圧突起 1 5 1 b、1 5 2 b、1 5 3 b は、板状体によって幅方向の長さが異なる。具体的には、第一板状体 1 5 1 に形成された押圧突起 1 5 1 b が一番長く、この第一板状体 1 5 1 に形成された押圧突起 1 5 1 b よりも第二板状体 1 5 2 に形成された押圧突起 1 5 2 b は短い。さらに、第二板状体 1 5 2 に形成された押圧突起 1 5 2 b よりも第三板状体 1 5 3 に形成された押圧突起 1 5 3 b は短い。これら三つの板状体は前後方向に重ねられているため、連繋部材 1 5 全体として前方から見ると、第一板状体 1 5 1 における押圧突起 1 5 1 b の左端が最も左寄りに位置し、第三板状体 1 5 3 における押圧突起 1 5 3 b の左端が最も右寄りに位置する構造となる。なお、各押圧突起 1 5 1 b、1 5 2 b、1 5 3 b の左端は、緩やかに傾斜した傾斜面となっている。

30

**【0056】**

以上の構成を備える第一装飾体 1 0 は、次のように動作する。第一装飾体用駆動源 1 4 に固定された出力歯車 1 4 1 が、連繋部材 1 5 のラック 1 5 a における左端部近傍に噛合した状態であるとき、各左要素部材 1 1 L、1 2 L、1 3 L の接続部 1 1 2、1 2 2、1 3 2 に形成された被押圧突起 1 1 2 b、1 2 2 b、1 3 2 b は、各板状体の貫通孔 1 5 1 a、1 5 2 a、1 5 3 a における相対的に幅広の部分に位置する。つまり、押圧突起 1 5 1 b、1 5 2 b、1 5 3 b が形成されていない部分に位置するため、被押圧突起 1 1 2 b、1 2 2 b、1 3 2 b は押圧突起 1 5 1 b、1 5 2 b、1 5 3 b に接触しない。したがって、各要素部材 1 1、1 2、1 3 に作用する部材は何も存在しないため、環状部 1 1 1、1 2 1、1 3 1 の自重によって環状部 1 1 1、1 2 1、1 3 1 が下方に位置する。具体的には、全ての要素部材 1 1、1 2、1 3 の環状部 1 1 1、1 2 1、1 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重ならない位置、すなわち、第一装飾体 1 0（第一装飾体 1 0 を構成する全ての要素部材 1 1、1 2、1 3）は第一位置に位置する（図 1 4 参照）。

40

**【0057】**

この状態から、第一装飾体用駆動源 1 4 を駆動し出力歯車 1 4 1 を一方向に回転させると、連繋部材 1 5 が左方向にスライドする。すると、まず、左端が最も左寄りに位置する

50

第一板状体 1 5 1 の押圧突起 1 5 1 b に、第一左要素部材 1 1 L の接続部 1 1 2 に形成された被押圧突起 1 1 2 b が接触する。具体的には、被押圧突起 1 1 2 b が押圧突起 1 5 1 b によって押し上げられる方向に移動する。このように被押圧突起 1 1 2 b が押し上げられると、第一左要素部材 1 1 L は、環状部 1 1 1 が右に移動する方向（時計回り）に回転する。このように第一左要素部材 1 1 L が回転すると、第一左要素部材 1 1 L の歯車 1 1 2 a に噛合する歯車 1 1 2 a を有する第一右要素部材 1 1 R は、環状部 1 1 1 が左に移動する方向（反時計回り）に回転する。このように、第一左要素部材 1 1 L と第一右要素部材 1 1 R は、各々の環状部 1 1 1 が互いに近づく方向に回転し、環状部 1 1 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる位置まで移動する（図 1 3 参照）。

【 0 0 5 8 】

10

さらに出力歯車 1 4 1 を一方向に回転させると、第二板状体 1 5 2 の押圧突起 1 5 2 b に、第二左要素部材 1 2 L の接続部 1 2 2 に形成された被押圧突起 1 2 2 b が接触する。これにより、上記第一要素部材 1 1 と同様に、第二左要素部材 1 2 L と第二右要素部材 1 2 R は、各々の環状部 1 2 1 が互いに近づく方向に回転し、環状部 1 2 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる位置まで移動する（図 1 2 参照）。そして、さらに出力歯車 1 4 1 を一方向に回転させると、第三板状体 1 5 3 の押圧突起 1 5 3 b に、第三左要素部材 1 3 L の接続部 1 3 2 に形成された被押圧突起 1 3 2 b が接触する。これにより、上記第一要素部材 1 1、第二要素部材 1 2 と同様に、第三左要素部材 1 3 L と第三右要素部材 1 3 R は、各々の環状部 1 3 1 が互いに近づく方向に回転し、環状部 1 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる位置まで移動する（図 1 1 参照）。

20

【 0 0 5 9 】

このように、第一装飾体 1 0 が第一位置に位置する状態から、出力歯車 1 4 1 を一方向に回転させれば第一要素部材 1 1、第二要素部材 1 2、第三要素部材 1 3、の順で、環状部 1 1 1、1 2 1、1 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる第二位置まで移動する。具体的には、第一要素部材 1 1 が第二位置まで移動し終えてから押圧突起 1 5 2 b に被押圧突起 1 2 2 b が接触することで第二要素部材 1 2 の移動が開始され、第二要素部材 1 2 が第二位置まで移動し終えてから押圧突起 1 5 3 b に被押圧突起 1 3 2 b が接触することで三要素部材 1 3 の移動が開始される。第三要素部材 1 3 が第二位置まで移動し終わると、図 1 1 に示すような第一装飾体 1 0 全体が第二位置に位置した状態となる。このとき、左要素部材 1 1 L、1 2 L、1 3 L と右要素部材 1 1 R、1 2 R、1 3 R の接続部 1 1 2、1 2 2、1 3 2 同士の間には、所定の大きさの空間（第一収納部 S 1）が形成される。

30

【 0 0 6 0 】

一方、第一装飾体 1 0 を第二位置から第一位置に移動させる際には、第一装飾体用駆動源 1 4 を駆動し出力歯車 1 4 1 を他方向に回転させ、連繋部材 1 5 を右方向にスライドさせる。すると、まず、左端が最も右寄りに位置する第三板状体 1 5 3 の押圧突起 1 5 3 b に、第三左要素部材 1 3 L の接続部 1 3 2 に形成された被押圧突起 1 3 2 b が接触した状態が解消される。具体的には、被押圧突起 1 3 2 b が押圧突起 1 5 3 b によって押し上げられた状態が解消される。このように被押圧突起 1 3 2 b が押し上げられた状態が解消されると、第三左要素部材 1 3 L は、環状部 1 3 1 がその重さにより（重力の作用により）左に移動する方向（反時計回り）に回転する。このように第三左要素部材 1 3 L が回転すると、第三左要素部材 1 3 L の歯車 1 3 2 a に噛合する歯車 1 3 2 a を有する第三右要素部材 1 3 R は、環状部 1 3 1 が右に移動する方向（時計回り）に回転する。このように、第三左要素部材 1 3 L と第三右要素部材 1 3 R は、各々の環状部 1 3 1 が互いに離れる方向に回転し、環状部 1 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重ならない位置まで移動する（図 1 2 参照）。

40

【 0 0 6 1 】

さらに出力歯車 1 4 1 を一方向に回転させると、第二板状体 1 5 2 の押圧突起 1 5 2 b に、第二左要素部材 1 2 L の接続部 1 2 2 に形成された被押圧突起 1 2 2 b が接触した状態が解消される。これにより、上記第三要素部材 1 3 と同様に、第二左要素部材 1 2 L と

50

第二右要素部材 1 2 R は、各々の環状部 1 2 1 が互いに離れる方向に回転し、環状部 1 2 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重ならない位置まで移動する（図 1 3 参照）。そして、さらに出力歯車 1 4 1 を一方向に回転させると、第一板状体 1 5 1 の押圧突起 1 5 1 b に、第一左要素部材 1 1 L の接続部 1 1 2 に形成された被押圧突起 1 1 2 b が接触した状態が解消される。これにより、上記第三要素部材 1 3、第二要素部材 1 2 と同様に、第一左要素部材 1 1 L と第一右要素部材 1 1 R は、各々の環状部 1 1 1 が互いに離れる方向に回転し、環状部 1 1 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重ならない位置まで移動する（図 1 4 参照）。

#### 【 0 0 6 2 】

このように、第一装飾体 1 0 が第二位置に位置する状態から、出力歯車 1 4 1 を他方向に回転させれば第三要素部材 1 3、第二要素部材 1 2、第一要素部材 1 1、の順で、環状部 1 1 1、1 2 1、1 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重ならない位置まで移動する。具体的には、第三要素部材 1 3 が第一位置まで移動し終えてから押圧突起 1 5 2 b と被押圧突起 1 2 2 b との接触状態が解消されることで第二要素部材 1 2 の移動が開始され、第二要素部材 1 2 が第一位置まで移動し終えてから押圧突起 1 5 1 b と被押圧突起 1 1 2 b との接触状態が解消されることで第一要素部材 1 1 の移動が開始される。第一要素部材 1 1 が第一位置まで移動し終わると、図 1 4 に示すような第一装飾体 1 0 全体が第一位置に位置した状態となる。

#### 2) 第二装飾体の構成・基本動作

装飾部材 5 が有する第二装飾体 2 0 の構成について説明する。第二装飾体 2 0 は、装置枠体 2 a の上部（表示装置 9 2 の表示画面の上側）に取り付けられた役物であり、第二装飾体用駆動源 2 4 によって第三位置と第四位置の間を移動可能である。この第二装飾体 2 0 は、第一要素部材 2 1 と、第二要素部材 2 2 と、第三要素部材 2 3 と、を備える。本実施形態では、各要素部材 2 1、2 2、2 3 は、遊技機 1 を上下方向に二分する中央線に関し左右対称に位置する二つの部材から構成される（以下、左側に位置する要素部材を左（第一～第三）要素部材 2 1 L、2 2 L、2 3 L、右側に位置する要素部材を右（第一～第三）要素部材 2 1 R、2 2 R、2 3 R と区別することもある）。

#### 【 0 0 6 3 】

各要素部材 2 1、2 2、2 3 は、円弧状に形成された環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 と、環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 の上方に形成される接続部 2 1 2、2 2 2、2 3 2 を有する。環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 は、遊技を演出する部分である。この環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 の円弧の径が小さい方から順に（曲率が大きい方から順に）第一要素部材 2 1、第二要素部材 2 2、第三要素部材 2 3 となる。全ての要素部材 2 1、2 2、2 3 の環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 が遊技者に視認可能となる下方に位置（表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる位置）した状態が、「第二装飾体 2 0 が第四位置に位置した状態」である（図 1 7 に示した状態）。この第四位置において、各要素部材 2 1、2 2、2 3 の環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 の円弧は同心円状に位置する。また、左要素部材 2 1 L、2 2 L、2 3 L と右要素部材 2 1 R、2 2 R、2 3 R の環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 は、同じ径の円弧を描くように一体的な形状を構成する。

#### 【 0 0 6 4 】

一方、「第二装飾体 2 0 が第三位置に位置した状態」とは、詳細を後述するように、各要素部材 2 1、2 2、2 3 の環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 同士が離れる方向に移動し、表示装置 9 2 の表示画面の前面側に全ての要素部材 2 1、2 2、2 3 の環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 が重なっていない状態である（図 1 4 に示した状態）。第三位置において、第二装飾体 2 0 は、その大部分が装置枠体 2 a の上部の後側に位置する。

#### 【 0 0 6 5 】

一方、接続部 2 1 2、2 2 2、2 3 2 は、先端（上端）が略円形に形成された部分である。各要素部材 2 1、2 2、2 3 は、接続部 2 1 2、2 2 2、2 3 2 の略円形部分の中心で装置枠体 2 a に回転自在に支持されている。平面方向における各要素部材 2 1、2 2、2 3 の回転中心は同じであり、各接続部 2 1 2、2 2 2、2 3 2 の円形部分同士は、同一

10

20

30

40

50

の支持軸 2 6 に回転自在に支持されている。この各要素部材 2 1 , 2 2 , 2 3 における接続部 2 1 2 , 2 2 2 , 2 3 2 の円形部分における中央側の一部には、互いに噛合する歯車 2 1 2 a , 2 2 2 a , 2 3 2 a が形成されている。この歯車 2 1 2 a , 2 2 2 a , 2 3 2 a の噛合位置を変化させることによって、要素部材 2 1 , 2 2 , 2 3 が上記略円形部分の中心を回転中心として回転する。すなわち、歯車 2 1 2 a , 2 2 2 a , 2 3 2 a の噛合位置を変化させることによって、第二装飾体 2 0 が第三位置から第四位置まで移動する。また、第一右要素部材 2 1 R、第二右要素部材 2 2 R、第三右要素部材 2 3 R には、上方に向かって突出する被押圧突起 2 1 2 b , 2 2 2 b , 2 3 2 b が形成されている。この各要素部材 2 1 , 2 2 , 2 3 に形成された被押圧突起 2 1 2 b , 2 2 2 b , 2 3 2 b は前後方向に重なるように（平面方向における位置が略同じとなるように）形成されている。この被押圧突起 2 1 2 b , 2 2 2 b , 2 3 2 b は、後述する連繫部材 2 5 に形成された押圧突起 2 5 1 b , 2 5 2 b , 2 5 3 b に係合する部分である。

10

**【 0 0 6 6 】**

このような構成の第二装飾体 2 0（各要素部材 2 1 , 2 2 , 2 3）は、装置枠体 2 a に固定された第二装飾体用駆動源 2 4 と次のように連繫されている。本実施形態では、第二装飾体用駆動源 2 4 はモータである。この第二装飾体用駆動源 2 4 の出力軸（回転軸）には、出力歯車 2 4 1 が固定されている。一方、装置枠体 2 a には、幅方向にスライド自在に固定された連繫部材 2 5 が設けられている。連繫部材 2 5 は、三枚の板状体が前後方向に重なるように組み合わせられてなる部材であり、三つの板状体は、それぞれ、第一要素部材 2 1、第二要素部材 2 2、および第三要素部材 2 3 に係合する（以下、第一要素部材 2 1 に係合する板状体を第一板状体 2 5 1、第二要素部材 2 2 に係合する板状体を第二板状体 2 5 2、第三要素部材 2 3 に係合する板状体を第三板状体 2 5 3 と区別して称することもある）。このうち、少なくともいずれか一つの板状体（本実施形態では第三板状体 2 5 3）には、ラック 2 5 a（歯竿）が形成されており、出力歯車 2 4 1 と噛合している。つまり、出力歯車 2 4 1 が回転することにより、三つの板状体が組み合わせられてなる連繫部材 2 5 は幅方向にスライドする。

20

**【 0 0 6 7 】**

一方、各連繫部材 2 5 の板状体には、幅方向に長い長孔である貫通孔 2 5 1 a , 2 5 2 a , 2 5 3 a が形成されている。この貫通孔 2 5 1 a , 2 5 2 a , 2 5 3 a には、各接続部 2 1 2 , 2 2 2 , 2 3 2 の円形部分同士を接続し、各要素部材 2 1 , 2 2 , 2 3 を回転自在に支持する支持軸 2 6 が挿通されている。そして、各右要素部材 2 1 R , 2 2 R , 2 3 R の接続部 2 1 2 , 2 2 2 , 2 3 2 に形成された被押圧突起 2 1 2 b , 2 2 2 b , 2 3 2 b は、対応する板状体に形成された貫通孔 2 5 1 a , 2 5 2 a , 2 5 3 a の内側に位置する（被押圧突起 2 1 2 b , 2 2 2 b , 2 3 2 b と貫通孔 2 5 1 a , 2 5 2 a , 2 5 3 a が同一平面上に位置する）。

30

**【 0 0 6 8 】**

また、貫通孔 2 5 1 a , 2 5 2 a , 2 5 3 a の上壁の右側には、押圧突起 2 5 1 b , 2 5 2 b , 2 5 3 b が形成されている。この押圧突起 2 5 1 b , 2 5 2 b , 2 5 3 b の存在により、貫通孔 2 5 1 a , 2 5 2 a , 2 5 3 a には上下方向における大きさが相対的に大きい部分（相対的に幅広の部分）と相対的に小さい部分（相対的に幅狭の部分）が形成される。押圧突起 2 5 1 b , 2 5 2 b , 2 5 3 b は、板状体によって幅方向の長さが異なる。具体的には、第一板状体 2 5 1 に形成された押圧突起 2 5 1 b が一番短く、この第一板状体 2 5 1 に形成された押圧突起 2 5 1 b よりも第二板状体 2 5 2 に形成された押圧突起 2 5 2 b は長い。さらに、第二板状体 2 5 2 に形成された押圧突起 2 5 2 b よりも第三板状体 2 5 3 に形成された押圧突起 2 5 3 b は長い。これら三つの板状体は前後方向に重ねられているため、連繫部材 2 5 全体として前方から見ると、第一板状体 2 5 1 における押圧突起 2 5 1 b の左端が最も右寄りに位置し、第三板状体 2 5 3 における押圧突起 2 5 3 b の左端が最も左寄りに位置する構造となる。なお、各押圧突起 2 5 1 b , 2 5 2 b , 2 5 3 b の左端は、緩やかに傾斜した傾斜面となっている。

40

**【 0 0 6 9 】**

50

以上の構成を備える第二装飾体 20 は、次のように動作する。第二装飾体用駆動源 24 に固定された出力歯車 241 が、連繋部材 25 のラック 25a における左端部近傍に噛合した状態であるとき、各右要素部材 21R, 22R, 23R の接続部 212, 222, 232 に形成された被押圧突起 212b, 222b, 232b は、各板状体の貫通孔 251a, 252a, 253a における相対的に幅広の部分に位置する。つまり、押圧突起 251b, 252b, 253b が形成されていない部分に位置するため、被押圧突起 212b, 222b, 232b は押圧突起 251b, 252b, 253b に接触しない。したがって、各要素部材 21, 22, 23 に作用する部材は何も存在しないため、環状部 211, 221, 231 の自重によって環状部 211, 221, 231 が下方に位置する。具体的には、全ての要素部材 21, 22, 23 の環状部 211, 221, 231 が表示装置 92 の表示画面の前面側に重なる位置、すなわち、第二装飾体 20 (第二装飾体 20 を構成する全ての要素部材 21, 22, 23) は第四位置に位置する (図 17 参照)。

10

**【0070】**

この状態から、第二装飾体用駆動源 24 を駆動し出力歯車 241 を一方向に回転させると、連繋部材 25 が左方向にスライドする。すると、まず、左端が最も左寄りに位置する第三板状体 253 の押圧突起 253b に、第三右要素部材 23R の接続部 232 に形成された被押圧突起 232b が接触する。具体的には、被押圧突起 232b が押圧突起 253b によって押し下げられる方向に移動する。このように被押圧突起 232b が押し下げられると、第三右要素部材 23R は、環状部 231 が右に移動する方向 (反時計回り) に回転する。このように第三右要素部材 23R が回転すると、第三右要素部材 23R の歯車 232a に噛合する歯車 232a を有する第三左要素部材 23L は、環状部 231 が左に移動する方向 (時計回り) に回転する。このように、第三左要素部材 23L と第三右要素部材 23R は、各々の環状部 231 が互いに離れる方向に回転し、環状部 231 が表示装置 92 の表示画面の前面側に重ならない位置まで移動する (図 16 参照)。

20

**【0071】**

さらに出力歯車 241 を一方向に回転させると、第二板状体 252 の押圧突起 252b に、第二右要素部材 22R の接続部 222 に形成された被押圧突起 222b が接触する。これにより、上記第三要素部材 23 と同様に、第二左要素部材 22L と第二右要素部材 22R は、各々の環状部 221 が互いに離れる方向に回転し、環状部 221 が表示装置 92 の表示画面の前面側に重ならない位置まで移動する (図 15 参照)。そして、さらに出力歯車 241 を一方向に回転させると、第一板状体 251 の押圧突起 251b に、第一右要素部材 21R の接続部 212 に形成された被押圧突起 212b が接触する。これにより、上記第三要素部材 23、第二要素部材 22 と同様に、第一左要素部材 21L と第一右要素部材 21R は、各々の環状部 211 が互いに離れる方向に回転し、環状部 211 が表示装置 92 の表示画面の前面側に重ならない位置まで移動する (図 14 参照)。

30

**【0072】**

このように、第二装飾体 20 が第四位置に位置する状態から、出力歯車 241 を一方向に回転させれば第三要素部材 23、第二要素部材 22、第一要素部材 21、の順で、環状部 211, 221, 231 が表示装置 92 の表示画面の前面側に重ならない第三位置まで移動する。具体的には、第三要素部材 23 が第三位置まで移動し終えてから押圧突起 252b に被押圧突起 222b が接触することで第二要素部材 22 の移動が開始され、第二要素部材 22 が第三位置まで移動し終えてから押圧突起 251b に被押圧突起 212b が接触することで第一要素部材 21 の移動が開始される。第一要素部材 21 が第三位置まで移動し終わると、図 14 に示すような第二装飾体 20 全体が第三位置に位置した状態となる。

40

**【0073】**

一方、第二装飾体 20 を第三位置から第四位置に移動させる際には、第二装飾体用駆動源 24 を駆動し出力歯車 241 を他方向に回転させ、連繋部材 25 を右方向にスライドさせる。すると、まず、左端が最も右寄りに位置する第一板状体 251 の押圧突起 251b に、第一右要素部材 21R の接続部 212 に形成された被押圧突起 212b が接触した状

50

態が解消される。具体的には、被押圧突起 2 1 2 b が押圧突起 2 5 1 b によって押し下げられた状態が解消される。このように被押圧突起 2 1 2 b が押し下げられた状態が解消されると、第一右要素部材 2 1 R は、環状部 2 1 1 がその重さにより（重力の作用により）左に移動する方向（時計回り）に回転する。このように第一右要素部材 2 1 R が回転すると、第一右要素部材 2 1 R の歯車 2 1 2 a に噛合する歯車 2 1 2 a を有する第一左要素部材 2 1 L は、環状部 2 1 1 が右に移動する方向（反時計回り）に回転する。このように、第一左要素部材 2 1 L と第一右要素部材 2 1 R は、各々の環状部 2 1 1 が互いに近づく方向に回転し、環状部 2 1 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる位置まで移動する（図 1 5 参照）。

【 0 0 7 4 】

10

さらに出力歯車 2 4 1 を一方向に回転させると、第二板状体 2 5 2 の押圧突起 2 5 2 b に、第二右要素部材 2 2 R の接続部 2 2 2 に形成された被押圧突起 2 2 2 b が接触した状態が解消される。これにより、上記第一要素部材 2 1 と同様に、第二左要素部材 2 2 L と第二右要素部材 2 2 R は、各々の環状部 2 2 1 が互いに近づく方向に回転し、環状部 2 2 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる位置まで移動する（図 1 6 参照）。そして、さらに出力歯車 2 4 1 を一方向に回転させると、第三板状体 2 5 3 の押圧突起 2 5 3 b に、第三右要素部材 2 3 R の接続部 2 3 2 に形成された被押圧突起 2 3 2 b が接触した状態が解消される。これにより、上記第一要素部材 2 1、第二要素部材 2 2 と同様に、第三左要素部材 2 3 L と第三右要素部材 2 3 R は、各々の環状部 2 3 1 が互いに近づく方向に回転し、環状部 2 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる位置まで移動する（図 1 7 参照）。

20

【 0 0 7 5 】

このように、第二装飾体 2 0 が第三位置に位置する状態から、出力歯車 2 4 1 を他方向に回転させれば第一要素部材 2 1、第二要素部材 2 2、第三要素部材 2 3、の順で、環状部 2 1 1、2 2 1、2 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なる第四位置）まで移動する。具体的には、第一要素部材 2 1 が第四位置まで移動し終えてから押圧突起 2 5 2 b と被押圧突起 2 2 2 b との接触状態が解消されることで第二要素部材 2 2 の移動が開始され、第二要素部材 2 2 が第四位置まで移動し終えてから押圧突起 2 5 3 b と被押圧突起 2 3 2 b との接触状態が解消されることで第三要素部材 2 3 の移動が開始される。第三要素部材 2 3 が第四位置まで移動し終わると、図 1 7 に示すような第二装飾体 2 0 全体が第

30

【 0 0 7 6 】

### 3) 演出体の構成・基本動作

演出体 3 0 の構成について説明する。演出体 3 0 は、装置枠体 2 a の左部（表示装置 9 2 の表示画面の左側）において連結部材を介して演出体用駆動源に接続された独立して動作する役物であり、第一演出位置と第二演出位置の間を移動可能である。本実施形態における演出体 3 0 は、正面視円形（三次元的に見れば円柱状）の遊技を演出する部分である。この演出体 3 0 が表示装置 9 2 の表示画面の下側に位置した状態が、「演出体 3 0 が第一演出位置に位置した状態」である（図 1 8 (a)、図 1 9 に示した状態）。また、演出体 3 0 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側略中央に重なって位置した状態が、「演出体 3 0 が第二演出位置に位置した状態」である（図 1 8 (b)、図 2 0 に示した状態）。なお、演出体 3 0 の前面には、図示されない駆動手段により回転する星状の演出要素 3 1 が設けられている。この演出体 3 0 の形状などは例示であり適宜変更可能である。

40

【 0 0 7 7 】

図 1 8 等 に示すように、連結部材は、主軸 3 2、従動軸 3 3、連結アーム 3 4、および補助アーム 3 5 を有する。主軸 3 2 および従動軸 3 3 の先端部に演出体 3 0 が固定されている。また、主軸 3 2 および従動軸 3 3 の基端部は、装置枠体 2 a の左部に回動自在に支持されている。同様に連結アーム 3 4 も、その基端部が装置枠体 2 a の左部に回動自在に支持されている。この連結アーム 3 4 の回動中心軸は、主軸 3 2 の回動中心軸と同一であり、連結アーム 3 4 と主軸 3 2 は一体的に回転する。連結アーム 3 4 の先端側には、連結

50

アーム 3 4 の長手方向に延びる長孔が形成されている。この長孔には、補助アーム 3 5 の先端部が係合されている。この補助アーム 3 5 の基端部は図示されない演出体用駆動源に接続されている。演出体用駆動源は、出力軸（回転軸）が偏心位置（モータの中央軸線からずれた位置）に設けられた偏心モータである。

【 0 0 7 8 】

以上の構成を備える演出体 3 0 は、次のように動作する。図 1 9 に示す演出体 3 0 が第一演出位置に位置している状態から、演出体用駆動源の出力軸を一方向に回転させると、補助アーム 3 5 の先端部が左方向に移動するように回転する。すると、補助アーム 3 5 の先端部が係合している連結アーム 3 4 も基端部を中心として左方向（反時計回り）に回転する。連結アーム 3 4 が左方向に回転すると、それと一体的に回転する主軸 3 2 も左方向（反時計回り）に回転する。すなわち、主軸 3 2 の先端部が起き上がる方向に回転する。主軸 3 2 の先端部には演出体 3 0 が固定されているから、主軸 3 2 の左方向への回転によって演出体 3 0 は表示装置 9 2 の表示画面の前面側略中央に重なる位置まで移動する（図 2 0 参照）。なお、この主軸 3 2 の移動に伴って主軸 3 2 とともに演出体 3 0 に固定されている従動軸 3 3 も左方向（反時計回り）に回転する。このようにして、演出体 3 0 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側略中央に重なる位置、すなわち第二演出位置に位置した状態となる。なお、演出体 3 0 が第二演出位置に位置した状態となったとき、従動軸 3 3 が図示されないフォトセンサの検出範囲に入り込む。これにより、演出体 3 0 が第二演出位置に位置したことが検出される。

【 0 0 7 9 】

図 2 0 に示す第二演出位置に位置した演出体 3 0 を第一演出位置に移動させる際には、演出体用駆動源を他方向に回転させる。これにより、補助アーム 3 5 の先端部が右方向に移動するように回転する。すると、補助アーム 3 5 の先端部が係合している連結アーム 3 4 も基端部を中心として右方向（時計回り）に回転する。連結アーム 3 4 が右方向に回転すると、それと一体的に回転する主軸 3 2 も右方向（時計回り）に回転する。連結アーム 3 4 の先端部には演出体 3 0 が固定されているから主軸 3 2 の右方向への回転によって演出体 3 0 は表示装置 9 2 の表示画面の下側に位置するまで移動する。なお、この主軸 3 2 の移動に伴って主軸 3 2 とともに演出体 3 0 に固定されている従動軸 3 3 も右方向（時計回り）に回転する。このようにして、演出体 3 0 が表示装置 9 2 の表示画面の下側に位置する状態、すなわち第一演出位置に位置した状態となる（図 1 9 参照）。

【 0 0 8 0 】

（第一装飾体および第二装飾体が有する各要素部材の対応した動作）

上記のように、本実施形態における装飾部材 5 を構成する第一装飾体 1 0 および第二装飾体 2 0 は、それぞれ、三つの要素部材 2 1 , 2 2 , 2 3 、 1 1 , 1 2 , 1 3 を有する（図 4 参照）。第一装飾体 1 0 の各要素部材は、第二装飾体 2 0 の一の要素部材と対応する。具体的には、第一装飾体 1 0 の第一要素部材 1 1 と第二装飾体 2 0 の第一要素部材 2 1 が対応し、第一装飾体 1 0 の第二要素部材 1 2 と第二装飾体 2 0 の第二要素部材 2 2 が対応し、第一装飾体 1 0 の第三要素部材 1 3 と第二装飾体 2 0 の第三要素部材 2 3 が対応する。すなわち、環状部の曲率が略一致するもの同士が対応した関係である。

【 0 0 8 1 】

第一装飾体 1 0 の各要素部材と、それに対応した第二装飾体 2 0 の一の要素部材は、一体的な形態を構成する。すなわち、第二位置に位置する第一装飾体 1 0 の第一要素部材 1 1 と第四位置に位置する第二装飾体 2 0 の第一要素部材 2 1 とは一つの円環形状の構造物（以下、単に小円 S C と称することもある）を構成する。同様に、第二位置に位置する第一装飾体 1 0 の第二要素部材 1 2 と第四位置に位置する第二装飾体 2 0 の第二要素部材 2 2 とが一つの円環形状の構造物（以下、単に中円 M C と称することもある）を構成し、第二位置に位置する第一装飾体 1 0 の第三要素部材 1 3 と第四位置に位置する第二装飾体 2 0 の第三要素部材 2 3 とが一つの円環形状の構造物（以下、単に大円 L C と称することもある）を構成する。

【 0 0 8 2 】



各要素部材が動作する順は、上述した通りである。本実施形態では、第一装飾体 10 および第二装飾体 20 の両方において、遊技盤の中央（上記円環形状の構造物を構成する位置）に移動する場合には、第一要素部材 11, 21、第二要素部材 12, 22、第三要素部材 13, 23 の順で、遊技盤の中央から離れる方向に移動する場合には、第三要素部材 13, 23、第二要素部材 22, 12、第一要素部材 11, 21 の順で移動する。このような順で要素部材を動作させる連繋部材 15（25）の板状体に形成された押圧突起 151b, 152b, 153b（251b, 252b, 253b）の位置は、各要素部材が前の要素部材が移動し終えてから移動を開始するように設定されている。

#### 【0083】

このような構成を有するため、本実施形態にかかる遊技機 1 の制御手段は、小円 SC のみを構成した形態（図 21 参照）、小円 SC と中円 MC を構成した形態（図 22 参照）、小円 SC と中円 MC と大円 LC を構成した形態（図 23 参照）のいずれかを用いた演出を行うことが可能である。

#### 【0084】

このように、第二装飾体 20 と第一装飾体 10 は円環形状の構造物を構築する合体動作を行う。なお、第一装飾体 10 および第二装飾体 20 が有する要素部材の数（三つ）は例示である。第一装飾体 10 および第二装飾体 20 が有する要素部材が同数であれば、その数は適宜変更可能である。

#### 【0085】

（装飾部材（第一装飾体および第二装飾体）と演出体を組み合わせた（合体、並設させた）演出）

以下、上記構成を備える可動演出装置 2 の装飾部材 5（第一装飾体 10 および第二装飾体 29）と演出体 30 を組み合わせた演出（動作）について説明する。なお、可動演出装置 2 の演出は、第一装飾体 10、第二装飾体 20、および演出体 30 がそれぞれ単独で動作する演出を行うことが可能である（図 11～図 20 で示した通り。説明は省略する）。なお、以下の説明では、（第一装飾体 10 と第二装飾体 20 を一つの部材として考えた）装飾部材 5 全体と演出体 30 を組み合わせた演出を「演出形態」と称し、（装飾部材 5 を第一装飾体 10 と第二装飾体 20 に分けて考えた）第一装飾体 10、第二装飾体 20、および演出体 30 の少なくとも二以上を組み合わせた演出を「演出状態」と称する。なお、本実施形態では、組み合わせとは複数の部材（装飾部材 5、演出体 30 等）が合体、並設

#### 【0086】

##### 1-1) 装飾部材と演出体による第一演出形態

装飾部材 5 と演出体 30 とを組み合わせた第一演出形態について説明する。第一演出形態は、第一演出位置に位置する演出体 30 と装飾部材 5 との組み合わせで構成される演出形態である。第一演出形態における装飾部材 5 の位置は、どのような位置であってもよいが、好ましい位置としては第一装飾位置が挙げられる。装飾部材 5 が「第一装飾位置」に位置した状態とは、第一装飾体 10 が第二位置に位置し、第二装飾体 20 が第四位置に位置した状態である。この場合、第一装飾体 10 の左要素部材 11L, 12L, 13L の接続部 112, 122, 132 と右要素部材 11R, 12R, 13R の接続部 112, 122, 132 の間には、所定の大きさの円形空間（第一収納部 S1）が形成されるため、この円形空間内に第一演出位置にある演出体 30 が位置する（収容される）。このように、第一演出位置に位置する演出体 30 と第一装飾位置に位置する装飾部材 5 によって、図 24 に示すような演出形態（第一演出形態の一つ）が構成される。

#### 【0087】

ここで、装飾部材 5 が第一装飾位置に位置している上記第一演出形態においては、演出体 30 は第一演出位置と第二演出位置の間を移動することができない。第二位置に位置する装飾体 10 の左要素部材 11L, 12L, 13L と右要素部材 11R, 12R, 13R によって、演出体 30 の第一演出位置と第二演出位置との間の移動経路が遮られるからである。これに対し、装飾部材 5 が第二装飾位置に位置している状態（第一装飾体 10 が第

一位置に位置し、第二装飾体 20 が第三位置に位置している状態)においては、演出体 30 の第一演出位置と第二演出位置との間の移動経路が遮られた状態にないから、演出体 30 の第一演出位置と第二演出位置との間の移動が可能である。つまり、第一装飾位置に位置する装飾部材 5 は、演出体 30 の第一演出位置と第二演出位置との間の移動を規制する移動規制部を構成する。

#### 【0088】

また、上記第一演出形態の一つである図 24 に示した形態では、第一装飾体 10 における左要素部材 11L, 12L, 13L の環状部 111, 121, 131 と右要素部材 11R, 12R, 13R の環状部 111, 121, 131、および、第二装飾体 20 における左要素部材 21L, 22L, 23L の環状部 211, 221, 231 と右要素部材 21R, 22R, 23R の環状部 211, 221, 231 によって所定の大きさの円形空間(第二収納部 S2)が形成される。この第二収納部 S2 内には演出体 30 が位置していないため、第二収納部 S2 から装飾部材 5 の後側に位置する表示装置 92 の表示部(表示画面の一部)が視認可能である。つまり、かかる形態において、演出体 30 が位置していない第二収納部 S2 は、表示装置 92 の表示部が視認可能な視認窓 W として機能する。

10

#### 【0089】

##### 1-2) 装飾部材と演出体による第二演出形態

装飾部材 5 と演出体 30 とを組み合わせた第二演出形態について説明する。第二演出形態は、第二演出位置に位置する演出体 30 と装飾部材 5 との組み合わせで構成される演出形態である。第二演出形態における装飾部材 5 の位置は、どのような位置であってもよいが、好ましい位置としては上記第一装飾位置が挙げられる。この場合、第一装飾体 10 における左要素部材 11L, 12L, 13L の環状部 111, 121, 131 と右要素部材 11R, 12R, 13R の環状部 111, 121, 131、および、第二装飾体 20 における左要素部材 21L, 22L, 23L の環状部 211, 221, 231 と右要素部材 21R, 22R, 23R の環状部 211, 221, 231 によって第二収納部 S2 が形成されるため、この円形空間内に第二演出位置にある演出体 30 が位置する(収容される)。このように、第二演出位置に位置する演出体 30 と第一装飾位置に位置する装飾部材 5 によって、図 25 に示すような演出形態(第二演出形態の一つ)が構成される。

20

#### 【0090】

ここで、上記第二演出形態においても、装飾部材 5 が第一装飾位置に位置しているから、演出体 30 は第一演出位置と第二演出位置の間を移動することができない。つまり、第一装飾位置に位置する装飾部材 5 は、演出体 30 の第一演出位置と第二演出位置との間の移動を規制する移動規制部を構成する。演出体 30 を移動させる際には、装飾部材 5 を第二装飾位置に位置させればよい。

30

#### 【0091】

また、上記第二演出形態の一つである図 25 に示した形態では、第一装飾体 10 の左要素部材 11L, 12L, 13L の接続部 112, 122, 132 と右要素部材 11R, 12R, 13R の接続部 112, 122, 132 の間には、第一収納部 S1 が形成される。この第一収納部 S1 内には演出体 30 が位置していないため、第一収納部 S1 から装飾部材 5 の後側に位置する表示装置 92 の表示部(表示画面の一部)が視認可能である。つまり、かかる形態において、演出体 30 が位置していない第一収納部 S2 は、表示装置 92 の表示部が視認可能な視認窓 W として機能する。

40

#### 【0092】

##### 2-1) 第一装飾体と演出体による第一演出状態

第一装飾体 10 と演出体 30 とを組み合わせた第一演出状態について説明する。第一装飾体 10 が第二位置に位置する場合、左要素部材 11L, 12L, 13L の接続部 112, 122, 132 と右要素部材 11R, 12R, 13R の接続部 112, 122, 132 の間には、所定の大きさの円形空間(第一収納部 S1)が形成される。この円形空間内に第一演出位置にある演出体 30 が位置する(収容される)ことにより、図 26 に示す第一演出状態が構成される。このように、第一演出位置に位置する演出体 30 と第一装飾体 1

50

0の組み合わせによって第一演出状態が構成される。

【0093】

さらに、第一装飾体10と演出体30とによって構成することのできる別の演出状態として、第二位置にある第一装飾体10と第二演出位置にある演出体30とによって構成される図27に示す演出状態が例示できる。なお、このとき、演出体30が位置していない第一収納部S1は、表示装置92の表示部が視認可能な視認窓Wとして機能する。

【0094】

また、このように第一演出状態を構成する第一装飾体10および演出体30には、次のような関係性がある。演出体30が第一演出位置および第二演出位置のいずれに位置する場合であっても、第一装飾体10は第一位置と第二位置の間を自由に移動することができる(演出体30に干渉しない)。一方、第一装飾体10が第二位置に位置する場合には、演出体30が第一演出位置および第二演出位置のいずれに位置する場合であっても、移動することはできない(第一装飾体10が演出体30の第一演出位置と第二演出位置との間の移動を規制する移動規制部を構成する)。これに対し、第一装飾体10が第一位置に位置する場合には、演出体30は第一演出位置と第二演出位置の間を自由に移動することができる(第一位置に位置する第一装飾体10に干渉しない)。

【0095】

したがって、遊技機1の制御手段は、第一装飾体10と演出体30を次のように制御する。「1.第一装飾体10を第一位置から第二位置に移動させ、かつ、演出体30を第一演出位置から第二演出位置へと移動させようとする際」には、演出体30を第一演出位置から第二演出位置へと移動させてから、第一装飾体10を第一位置から第二位置に移動させる。最初に第一装飾体10を第二位置に移動させてしまうと演出体30が円形空間(第一収納部S1)に収納された状態となり、全く移動することができなくなってしまうからである。「2.第一装飾体10を第一位置から第二位置に移動させ、かつ、演出体30を第一演出位置に位置させたままとする」際には、そのまま第一装飾体10のみを第一位置から第二位置へ移動させればよい。「3.第一装飾体10を第二位置から第一位置に移動させ、かつ、演出体30を第二演出位置から第一演出位置に移動させようとする際」には、第一装飾体10を第二位置から第一位置に移動させてから、演出体30を第二演出位置から第一演出位置に移動させる。第二位置に位置する第一装飾体10によって表示装置92の表示画面の下側に円形空間が形成されているからである。「4.第一装飾体10を第二位置から第一位置に移動させ、かつ、演出体30を第二演出位置に位置させたままとする際」には、そのまま第一装飾体10のみを第二位置から第一位置へ移動させればよい。

【0096】

なお、演出体30の第一演出位置と第二演出位置との間の移動を規制する移動規制部として、第二装飾体20を用いることもできる。具体的には、第二装飾体20における左要素部材21L, 22L, 23Lの環状部211, 221, 231と右要素部材21R, 22R, 23Rの環状部211, 221, 231の円弧の長さを大きくする(円弧を下方に延ばす)ことにより、第二装飾体20が第四位置に位置しているときには、演出体30の第一演出位置と第二演出位置との間の移動を第二装飾体20の環状部211, 221, 231、211, 221, 231により規制することができる。この場合に演出体30を移動させるときには、第二装飾体20を第三位置に位置させればよい。

【0097】

2-2)第二装飾体と演出体による第二演出状態

第二装飾体20と演出体30とを組み合わせた第二演出状態について説明する。上述したように、第二装飾体20は第四位置において各要素部材21, 22, 23の環状部211, 221, 231が表示装置92の表示画面の前面側に重なるように位置する。このとき、左要素部材21L, 22L, 23Lの環状部221, 221, 231と右要素部材21R, 22R, 23Rの環状部211, 221, 231は、下方が破断した円環形状の構造物を構築する。この円環形状の構造物の内側の空間(下方が開口した円形空間)には、第二演出位置に位置する演出体30が入り込むことが可能である。つまり、第四位置に位

10

20

30

40

50

置する第二装飾体 2 0 および第二演出位置に位置する演出体 3 0 によって、図 2 8 に示す第二演出状態が構成される。

【 0 0 9 8 】

上記演出体 3 0 および第二装飾体 2 0 は、一方がどの位置に位置していても、他方が自由に移動することが可能である。詳しくは、演出体 3 0 は装置枠体 2 a で囲まれた領域の上下方向における略中央から下の領域で移動するのに対し、第二装飾体 2 0 は装置枠体 2 a で囲まれた領域の上下方向における略中央から上の領域で移動するから、両者は干渉せず、自由に移動することが可能である。ただし、上述したように、第二装飾体 2 0 における左要素部材 2 1 L , 2 2 L , 2 3 L の環状部 2 1 1 , 2 2 1 , 2 3 1 と右要素部材 2 1 R , 2 2 R , 2 3 R の環状部 2 1 1 , 2 2 1 , 2 3 1 の円弧の長さを大きくする（円弧を下方に延ばす）ことにより、第二装飾体 2 0 を演出体 3 0 の移動を規制する移動規制部として機能させることも可能である。

10

【 0 0 9 9 】

2 - 3 ) 第一装飾体と第二装飾体による第三演出状態

第一装飾体 1 0 と第二装飾体 2 0 を組み合わせた第三演出状態について説明する。上述したように、第一装飾体 1 0 は第二位置において各要素部材 1 1 , 1 2 , 1 3 の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なるように位置する。このとき、左要素部材 1 1 L , 1 2 L , 1 3 L の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 と右要素部材 1 1 R , 1 2 R , 1 3 R の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 は、上方が破断した円環形状の構造物を構築する。一方、第二装飾体 2 0 は第四位置において各要素部材 2 1 , 2 2 , 2 3 の環状部 2 1 1 , 2 2 1 , 2 3 1 が表示装置 9 2 の表示画面の前面側に重なるように位置し、左要素部材 2 1 L , 2 2 L , 2 3 L の環状部 2 1 1 , 2 2 1 , 2 3 1 と右要素部材 2 1 R , 2 2 R , 2 3 R の環状部 2 1 1 , 2 2 1 , 2 3 1 が下方が破断した円環形状の構造物を構築する。第一装飾体 1 0 が構築する円環形状の構造物の破断した部分には、第二装飾体 2 0 が構築する円環形状の構造物が位置する。つまり、第二位置に位置する第一装飾体 1 0 の環状部 1 1 1 , 1 2 1 , 1 3 1 と第四位置に位置する第二装飾体 2 0 の環状部 2 1 1 , 2 2 1 , 2 3 1 によって、図 2 1 から図 2 3 で示したような連続する（破断した部分の無い）円環形状の構造物が構成される。

20

【 0 1 0 0 】

上記第一装飾体 1 0 および第二装飾体 2 0 は、一方がどの位置に位置していても、他方が自由に移動することが可能である。詳しくは、第一装飾体 1 0 は装置枠体 2 a で囲まれた領域の上下方向における略中央から下の領域で移動するのに対し、第二装飾体 2 0 は装置枠体 2 a で囲まれた領域の上下方向における略中央から上の領域で移動するから、両者は干渉せず、自由に移動することが可能である。

30

【 0 1 0 1 】

この第一装飾体 1 0 と第二装飾体 2 0 によってこの円環形状の構造物を構成する際、演出体 3 0 は第一演出位置および第二演出位置のいずれに位置していてもよい。具体的には、第一装飾体 1 0 によって構成される上記第一収納部 S 1 に第一演出位置にある演出体 3 0 が位置する場合、図 2 4 に示す演出状態（上記第一演出形態の一つ）が構成される。また、円環形状の構造物の内側に形成される円形空間（第二収納部 S 2 ）に第二演出位置にある演出体 3 0 が位置する場合、図 2 5 に示す演出状態（上記第二演出形態の一つ）が構成される。このように、第三演出状態は、第一装飾体 1 0 と第二装飾体 2 0 によって円環形状の構造物が構成される演出状態であるが、別の見方をすれば、第一装飾体 1 0 、第二装飾体 2 0 、および演出体 3 0 によって構成される演出状態（上記第一演出形態や第二演出形態に含まれる演出形態）とも捉えられる。

40

【 0 1 0 2 】

また、上記第三演出状態において、第一収納部 S 1 や第二収納部 S 2 に演出体 3 0 が位置していない場合、これら第一収納部 S 1 および第二収納部 S 2 から装飾部材 5（第一装飾体 1 0 および第二装飾体 2 0）の後側に位置する表示装置 9 2 の表示部（表示画面の一部）が視認可能である。つまり、演出体 3 0 が位置していない収納部は、表示装置の表示

50

部が視認可能な視認窓Wとして機能する。

【0103】

なお、上記第一演出形態と第二演出形態、および、第一演出状態から第三演出状態の説明において、第二装飾体20を第四位置に位置させると説明したケースでは、第二装飾体20の第一要素部材21のみを第四位置に位置させてもよいし、第一要素部材21と第二要素部材22を第四位置に位置させてもよいし、第一要素部材21から第三要素部材23の全てを第四位置に位置させてもよい。同様に、第一装飾体10を第二位置に位置させると説明したケースでは、第一装飾体10の第一要素部材11のみを第二位置に位置させてもよいし、第一要素部材11と第二要素部材12を第二位置に位置させてもよいし、第一要素部材11から第三要素部材13の全てを第二位置に位置させてもよい。

10

【0104】

(本実施形態の主な作用効果)

以上説明した本発明にかかる遊技機1によれば、次のような作用効果が奏される。

【0105】

本実施形態にかかる遊技機1において、第一装飾位置と第二装飾位置との間を移動可能である装飾部材5は、第一演出位置に位置する演出体30と第一演出形態を構成すると共に、第二演出位置に位置する演出体30と第二演出形態を構成する。つまり、独立して動作する演出体30が第一演出位置にあるか第二演出位置にあるかにより別の演出形態を構成することが可能であるから、幅広い演出効果を発現する遊技機1となる。

【0106】

20

また、装飾部材5によって形成される第一収納部S1および第二収納部S2に演出体30が入り込んだ状態とすることができ、限られた遊技領域を有効に活用して効果的な演出を行うことが可能となる。具体的には、装飾部材5と演出体30との合体動作による優れた演出効果が発現される。

【0107】

また、第一装飾位置に位置している装飾部材5によって、第一演出位置と第二演出位置の間の演出体30の移動を規制する移動規制部が構成されるため(装飾部材5と演出体30の動作が規制されるため)、装飾部材5と演出体30が干渉することを防止しつつ、種々の演出を行うことが可能となる。

【0108】

30

また、遊技者は、演出体30が位置していない収容部(視認窓W)から表示装置92の表示部の画像を視認することができる。この表示装置92の表示部における視認窓Wから視認できる部分に種々の画像を映し出すことにより、装飾部材5と表示装置92が一体となった種々の演出を行うことが可能となる。

【0109】

一方、本実施形態にかかる遊技機1において、第一装飾体10は、第一演出位置に位置する演出体30と第一演出状態を構成し、第一装飾体10とともに合体動作を行う第二装飾体20は、第二演出位置に位置する演出体30と第二演出状態を構成する。つまり、独立して動作する演出体30が第一演出位置にあるか第二演出位置にあるかによって、合体動作を行う第一装飾体10および第二装飾体20との組み合わせによって異なる演出状態を構成することが可能であるから、幅広い演出効果を発現する遊技機1となる。

40

【0110】

また、第一装飾体10は第一位置と第二位置の間を移動可能であり、第二位置に位置する第一装飾体10と第四位置に位置する第二装飾体20によって第三演出状態を構成することができるため、第一装飾体10と第二装飾体20によってより幅広い演出効果を発現することが可能となる。

【0111】

また、第一装飾体10によって第一演出位置に位置する演出体30を収容することができる第一収納部S1、第一装飾体10および第二装飾体20によって第二演出位置に位置する演出体30を収容することができる第二収納部S2が構成される構造であるから、限

50

られた遊技領域を有効に活用して効果的な演出を行うことが可能となる。具体的には、第一装飾体 10 および第二装飾体 20 の少なくともいずれか一方と、演出体 30 との合体動作による優れた演出効果が発現される。

#### 【0112】

また、遊技機 1 が備える制御手段により、第一装飾体 10 と演出体 30 の干渉を防止しつつ種々の演出を行うことが可能である。

#### 【0113】

また、第一装飾体 10 および第二装飾体 20 が、ともに、複数の要素部材（第一要素部材 21, 11 ~ 第三要素部材 23, 13）から構成され、第二装飾体 20 の要素部材 21, 22, 23 と第一装飾体 10 の要素部材 11, 12, 13 が組み合わされて一体的な形態（円環形状の構造物）を構成する構成であるから、第二装飾体 20 と第一装飾体 10 によってなされる合体動作に様々な変化をもたらすことができる。換言すれば、複数種類の合体動作による演出を提供することが可能となる。

#### 【0114】

また、第一装飾体 10 または第二装飾体 20 を構成するある要素部材が第一位置または第三位置から第二位置または第四位置に移動し終えてから次の要素部材の第一位置または第三位置から第二位置または第四位置までの移動が行われるように構成されるため、一の要素部材のみで形態を構成したり、複数の要素部材で形態を構成したりすることが可能となり、幅広い演出を提供することが可能となる。

#### 【0115】

また、第一装飾体 10 および第二装飾体 20 を構成する複数の要素部材（第一要素部材 11, 21 ~ 第三要素部材 13, 23）が、予め定められた移動順通りに移動し、同じ移動順の要素部材同士が一体的な形態を構成するから、ある一つの要素部材同士だけで一体的な形態を構成したり、複数の要素部材同士で一体的な形態を構成したりするなど、幅広い演出を提供することができる。

#### 【0116】

以上、本発明の実施の形態について詳細に説明したが、本発明は上記実施の形態に何ら限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々の改変が可能である。

#### 【0117】

例えば、上記実施形態における、第一装飾体 10、第二装飾体 20、および演出体 30 の駆動方法は一例である。上記と同様の動作を行うことができる構成であれば、これら可動部材の駆動方法は適宜変更可能である。

#### 【0118】

また、上記実施形態では、第一装飾体 10 と第二装飾体 20 の両方において、複数の要素部材が予め定められた動作順で動作することを説明したが、第一装飾体 10 および第二装飾体 20 のいずれか一方のみが予め定められた動作順で動作するようにしてもよい。

#### 【0119】

また、収納部 S1, S2 の大きさは、演出体 30 よりも大きければよく、収納部 S1, S2 に演出体 30 を収納した際に装飾部材 5 と演出体 30 が一体的に見えていれば、演出体 30 と装飾部材 5 との間に隙間が生じる構成であってもよいし、演出体 30 と装飾部材 5 が接触している構成であってもよい。さらに本実施形態では、装飾部材 5 および演出体 30 は少なくとも一部が同一平面上に位置する構成であればよく、全てが同一平面上に位置していなくともよい。

#### 【符号の説明】

#### 【0120】

1	遊技機
5	装飾部材
10	第一装飾体
11 (11L, 11R)	第一要素部材
12 (12L, 12R)	第二要素部材

10

20

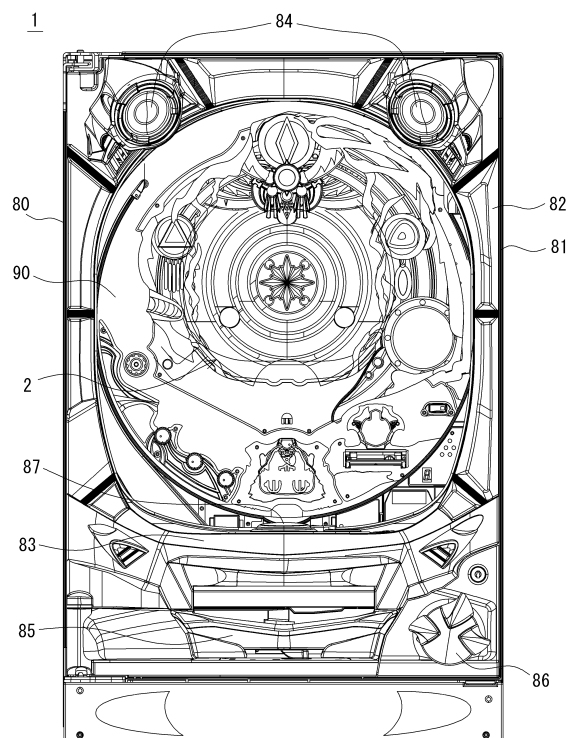
30

40

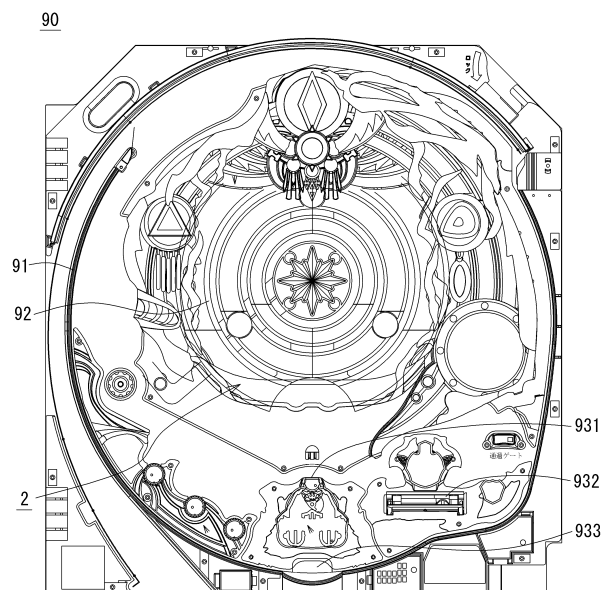
50

1 3 ( 1 3 L , 1 3 R )	第三要素部材
2 0	第二裝飾体
2 1 ( 2 1 L , 2 1 R )	第一要素部材
2 2 ( 2 2 L , 2 2 R )	第二要素部材
2 3 ( 2 3 L , 2 3 R )	第三要素部材
S 1	第一収納部
S 2	第二収納部
W	視認窓
3 0	演出体

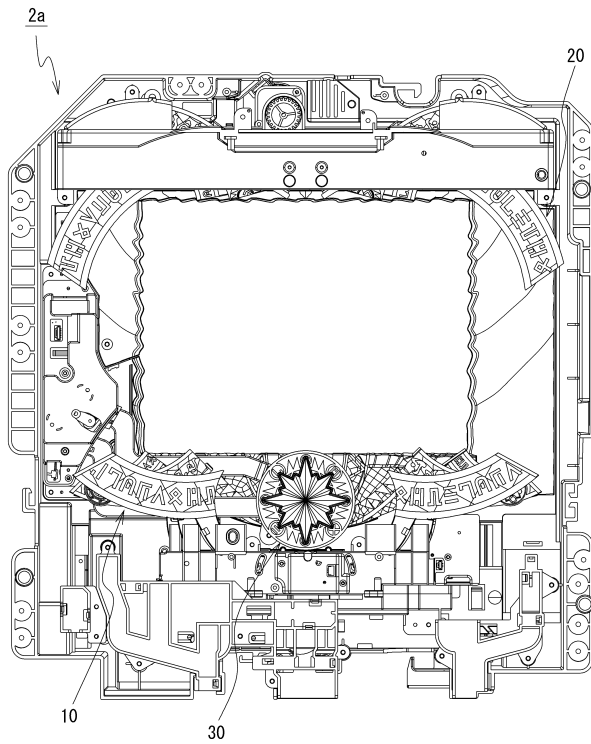
【図 1】



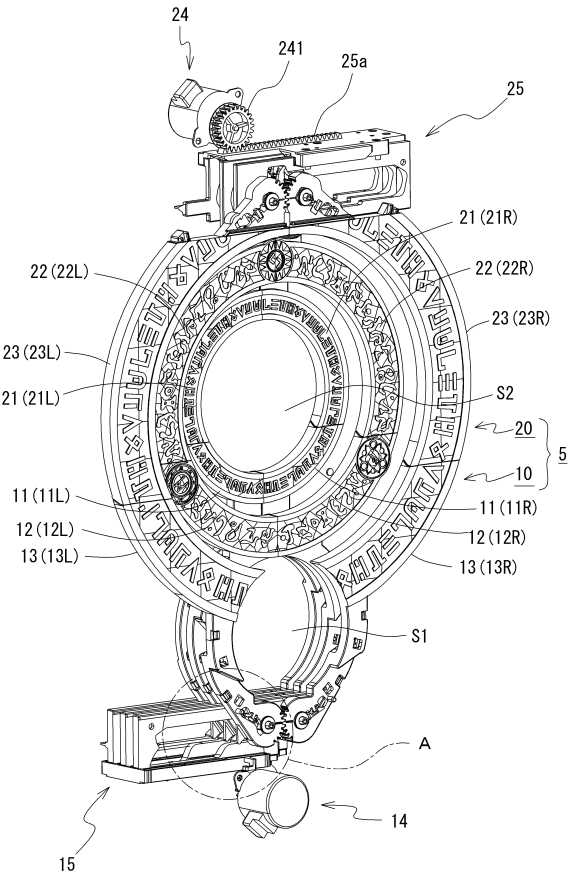
【図 2】



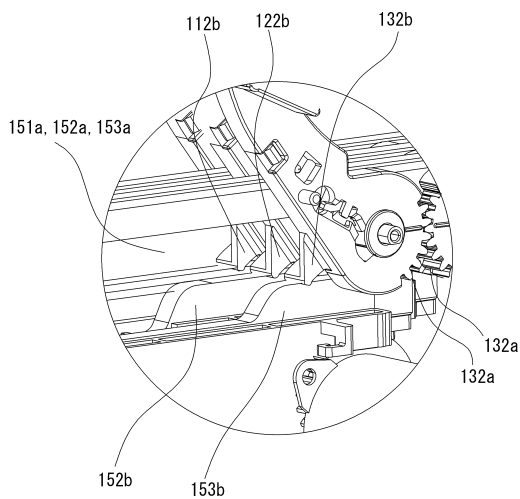
【図 3】



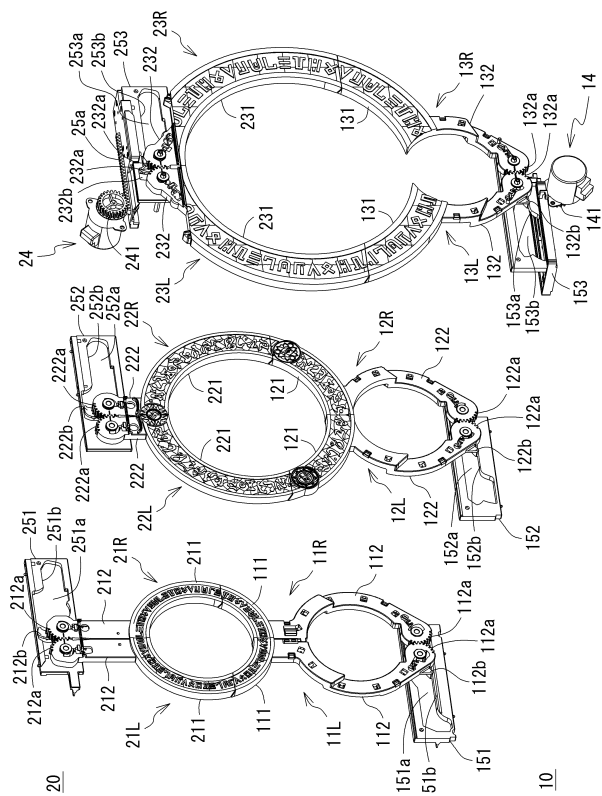
【図 4】



【図 5】

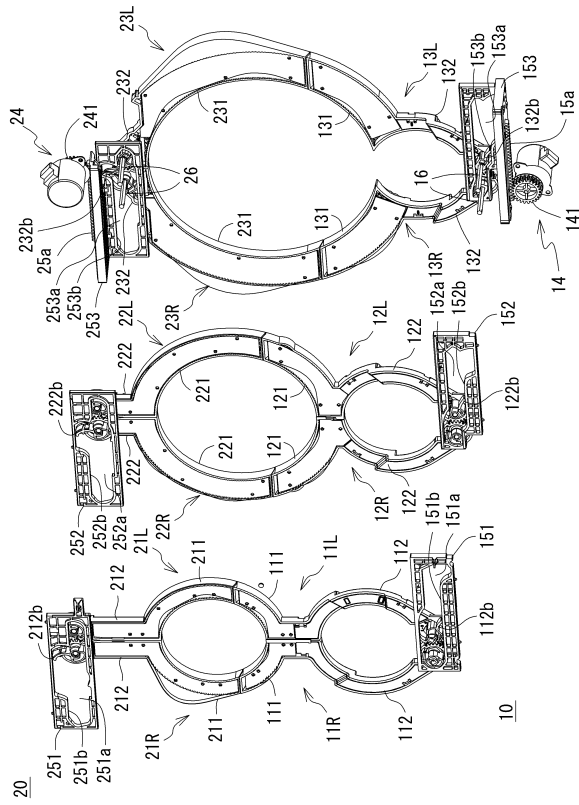


【図 6】

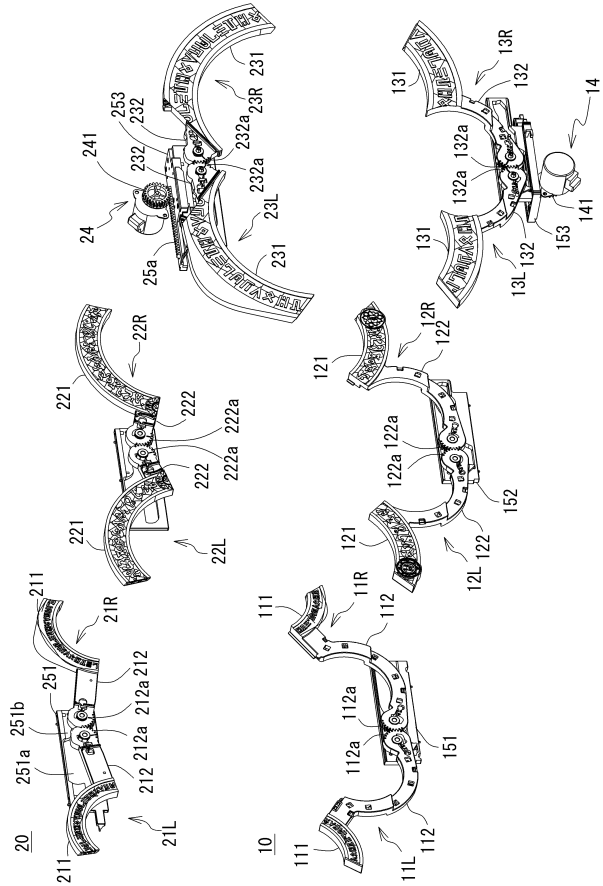




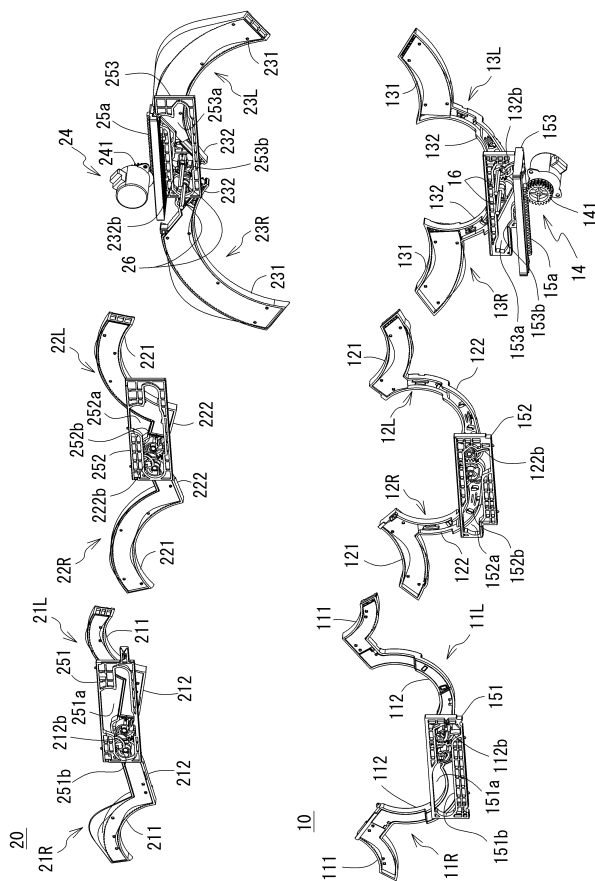
【図 7】



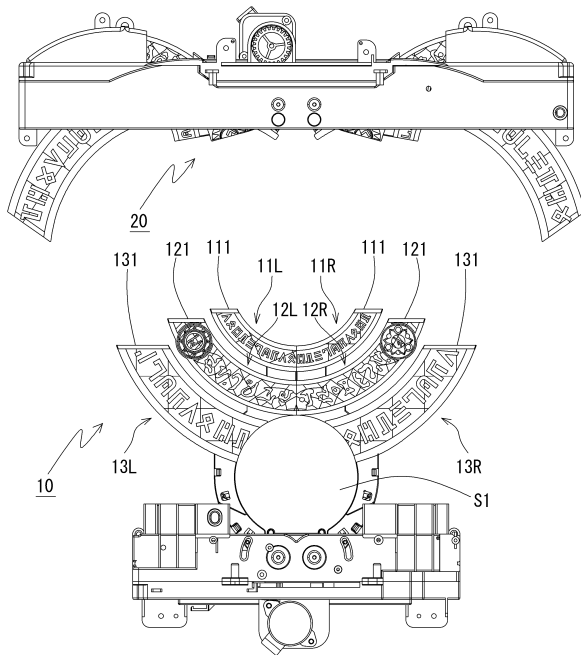
【図 8】



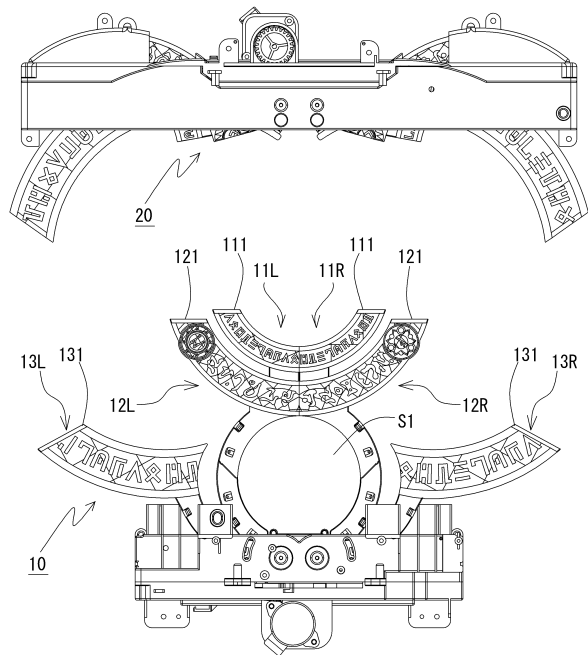
【図 9】



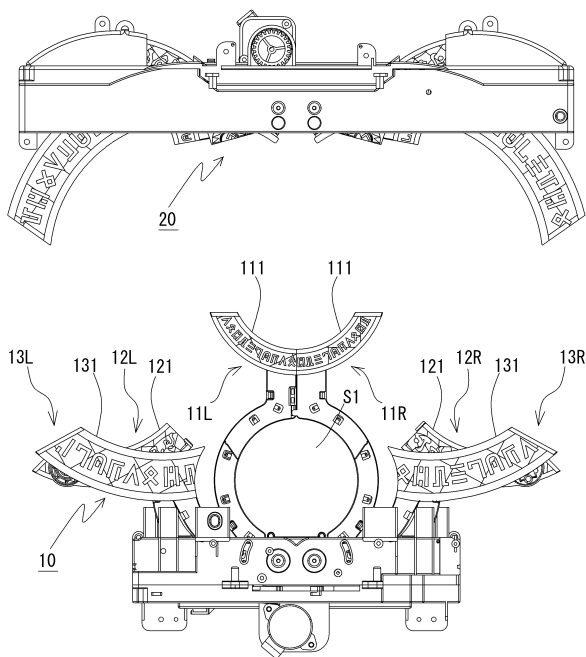
【図 1 1】



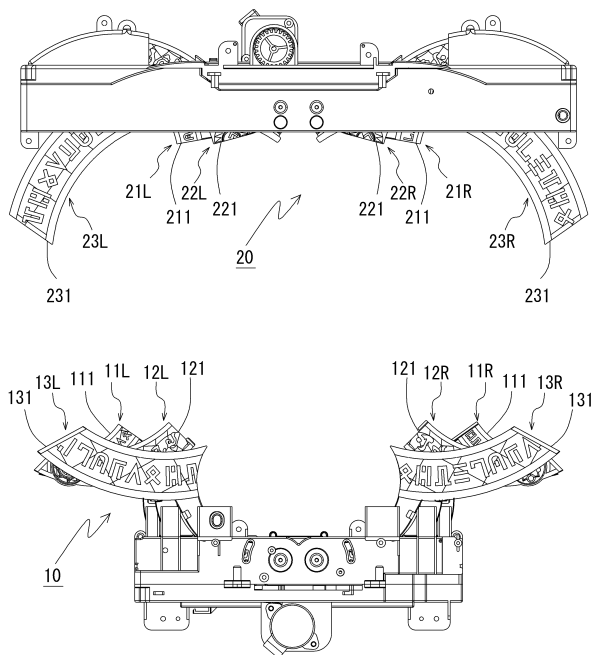
【図 1 2】



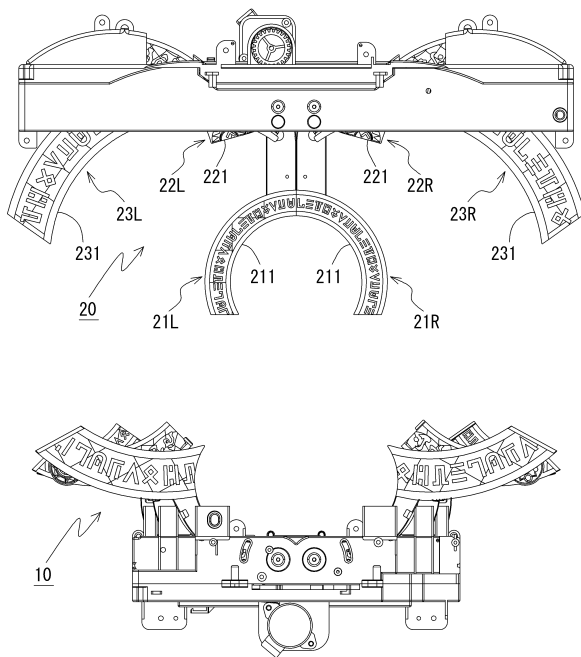
【図 1 3】



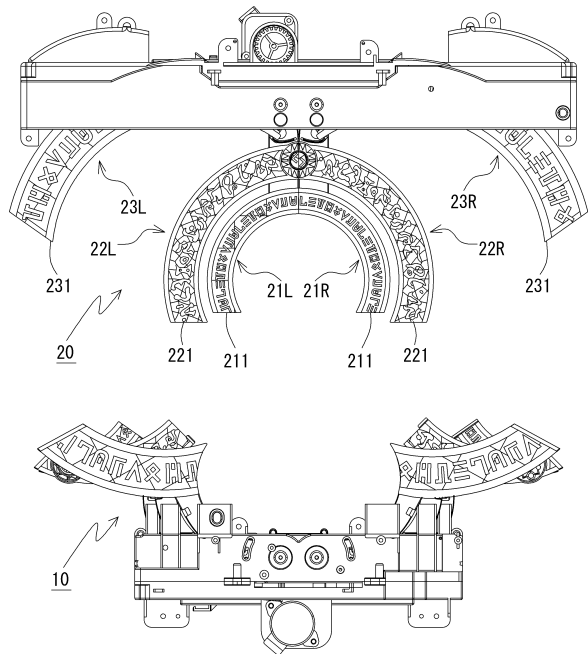
【図 1 4】



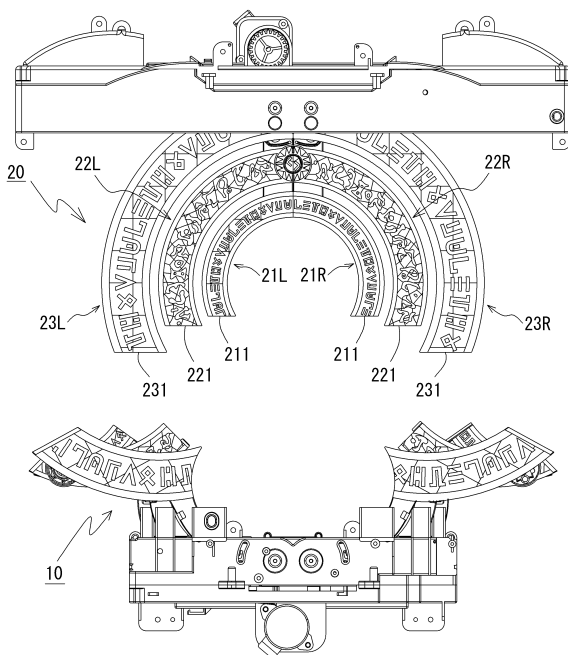
【図 15】



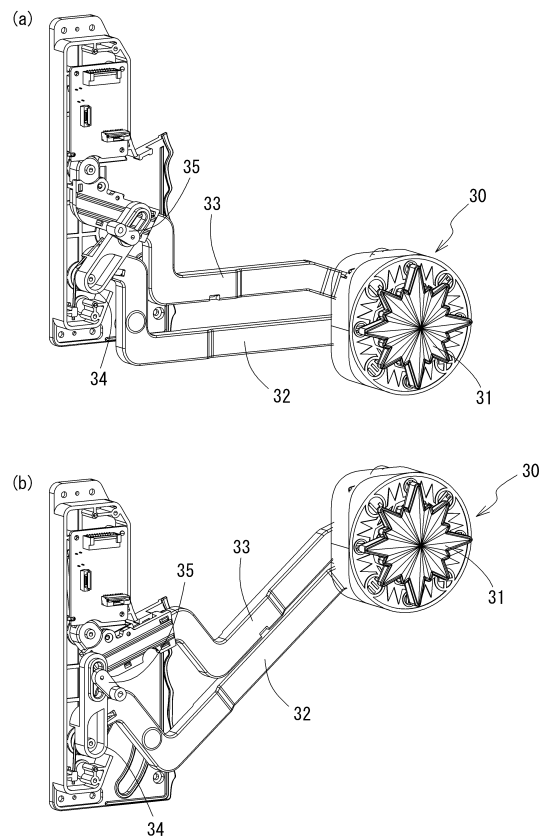
【図 16】



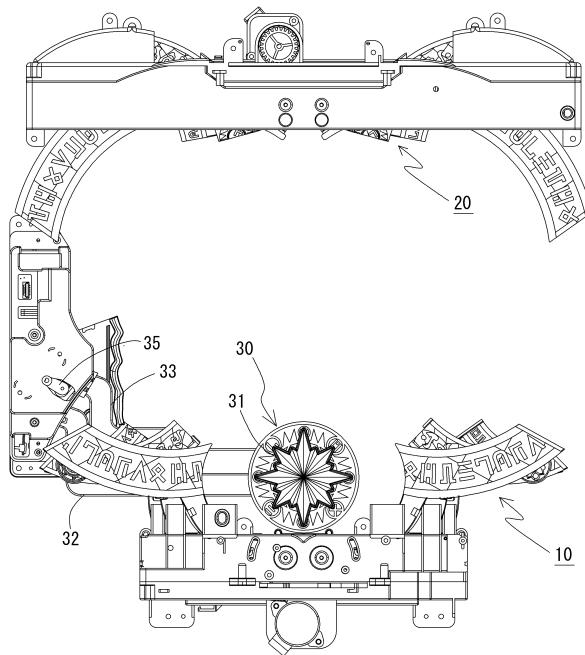
【図 17】



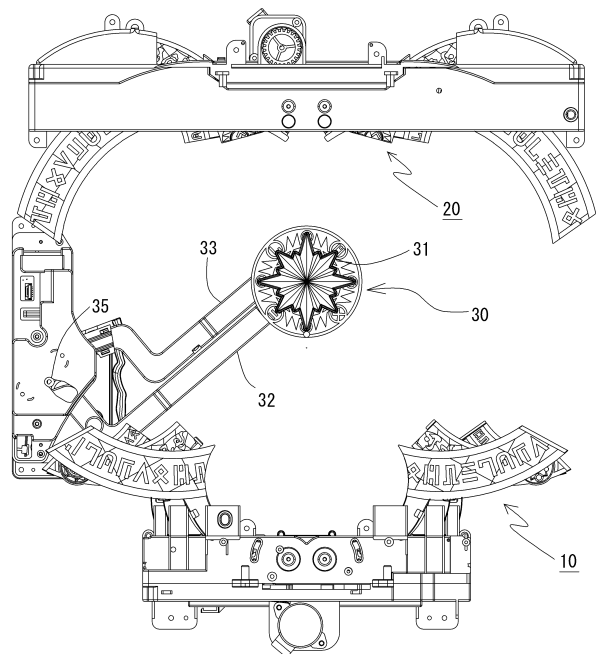
【図 18】



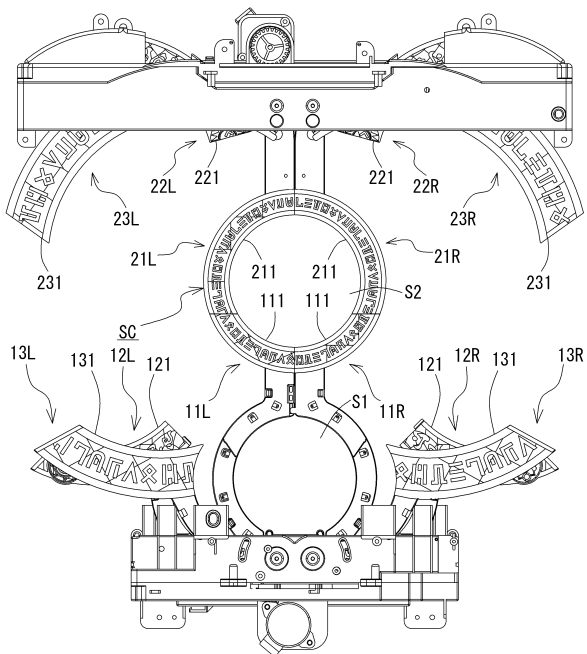
【図 19】



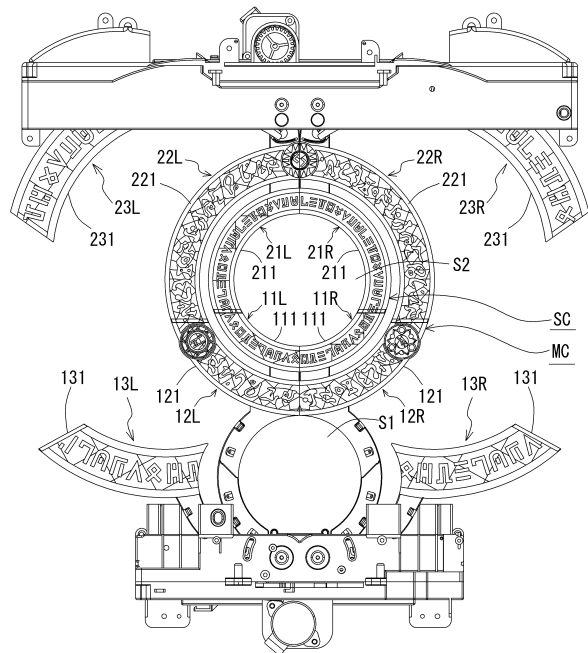
【図 20】



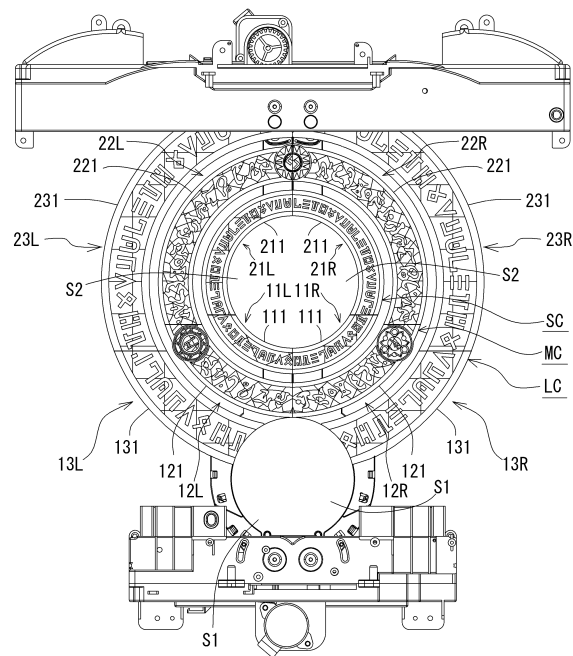
【図 21】



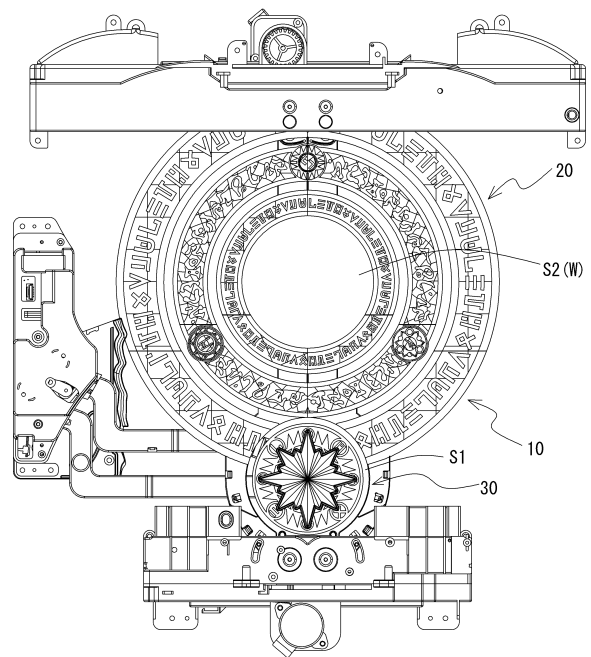
【図 22】



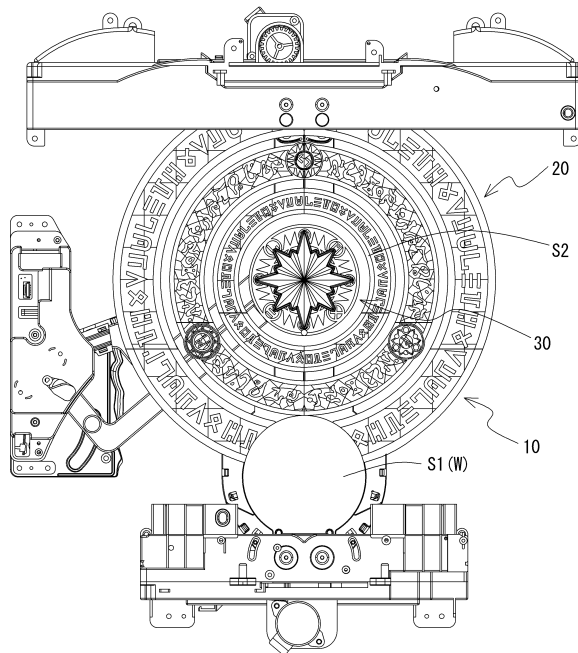
【図 23】



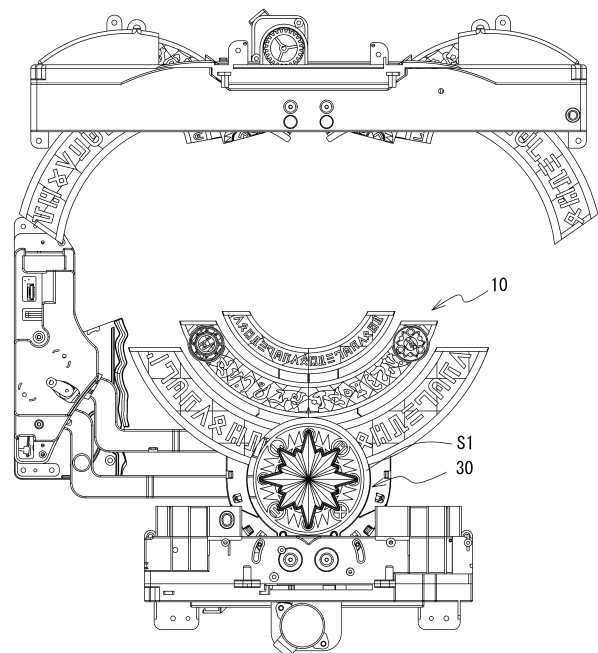
【図 24】



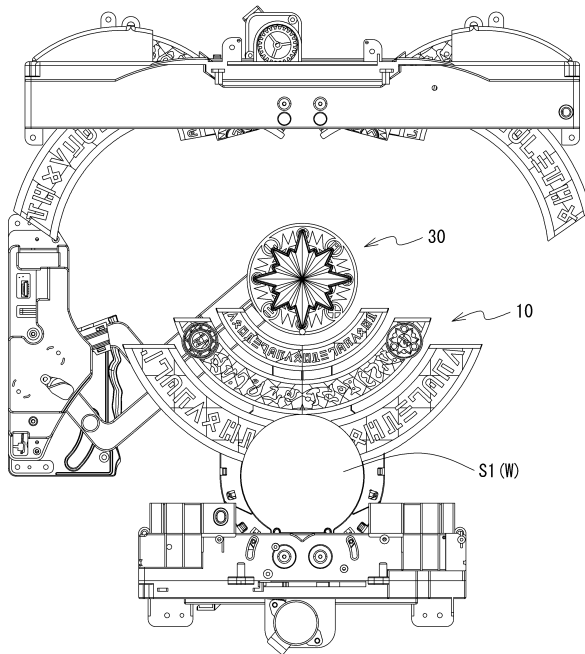
【図 25】



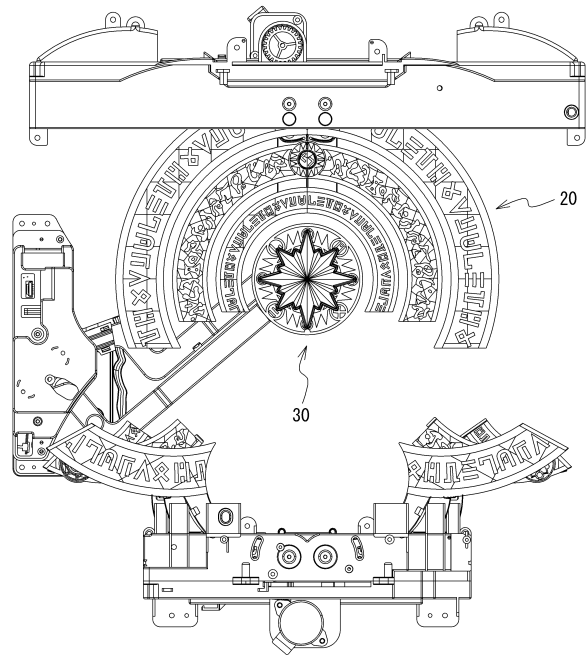
【図 26】



【図 27】



【図 28】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 特開2011-087992(JP,A)  
特開2010-011899(JP,A)  
特開2008-220694(JP,A)  
特開2007-202622(JP,A)  
特開2010-063785(JP,A)  
特開2011-092640(JP,A)  
特開2009-261420(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
A63F 7/02